

〔第1学年及び第2学年〕目標(「学びに向かう力、人間性等」の単元目標)

(1) 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。

(2) 順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもつことができるようにする。

(3) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

「学習内容」…△知識・技能 ◇話すこと・聞くこと ■書くこと □読むこと

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ	領域	時	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
			学習内容 ★ここが大事／☆学習用語				
1学期	4月	3	なかよしの みち 教科書:P1 □挿絵を見ながら気づいたことを話し、話を想像しながら物語を楽しむとともに、国語学習への関心や意欲をもつ。	読む	1	1. 挿絵をもとにお話を想像し、気づいたことを話し合う。 ・季節 ・登場人物 ・お話の内容 ＊国語学習のスタートにあたり、言葉の楽しさを味わい、国語への期待を高めるような展開を心がける。学習規律をおさえながら、どんなことを言っても温かく受け入れる雰囲気を作ることが大切である。 ＊登校の場面だが、動物の形の雲や水たまりに宇宙が見えるなど、現実の中に非現実の世界が描かれている。「こうなったらいいな」と想像することの楽しさを感じさせる。	【知識・技能】 ○音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。(1)イ) 【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(C(1)イ) 【言語活動例】 ・読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。(C(2)イ)
					2	2. (一)・(二)・(三)の場面の絵から、気づいたことや想像したことを話し合う。 (1)場面を比べて気づいたことを話し合う。 (2)登場人物がどんなことを話しているか、想像したことを話し合う。 ＊友達と会ってから学校に着くまでを比べ、変化を話し合わせる。 3. どんなことがあったのか、挿絵の人物になったつもりで発表する。 ＊隣の席の人と組みになり、絵を見て気づいたことを自由に話させる。	
					3	4. 想像したお話の素敵だな、いいなと思うところはどこか、話し合う。 ＊自分の気持ちを伝えられることを重視するが、無理強いはいしない。ときには児童の側に寄って、言葉をつなぎながら発言を支える。 (1)登場人物や背景となっているさまざまなもの、人々の表情などに着目し、発表する。 (2)なぜそう思ったのか、理由が言えたら発表する。 ＊挿絵の細かい部分までよく見て考えさせる。 ＊話したことを聞き合うことのうれしさを感じさせたい。	
1学期	4月	2 (話す聞く2)	あかるい あいさつ 教科書:P6 ◇学校生活のさまざまな場面の挿絵をもとに、挨拶の言葉を考え、場面に合わせた挨拶ができるようにする。	話聞	1	1. 挿絵の表情に着目し、明るい挨拶の仕方を考える。 (1)登校から下校までの絵から挨拶の様子を話し合う。 ・誰と挨拶しているか ・何を言っているか ＊心をこめた挨拶や言葉かけの大切さに気づかせる。 ＊「おはようございます。」の挨拶だけでなく、相手を思いやる言葉も大切であることを気づかせる。例えば「今日、一緒に遊ぼうね。」「昨日はありがとう。」など。 (2)自分の挨拶はどうか、振り返る。 (3)挨拶の練習をする。 ＊「挨拶名人」の観点を話し合い、教室に掲示するとよい。 (観点の例)相手に聞こえる声で はっきり相手の目を見て 笑顔で自分からすすんで など ＊教師対児童で挨拶の練習をする。地域のかた、校長先生、担任の先生、知らない先生など、役割を決めて挨拶する。	【知識・技能】 ○音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。(1)イ) 【思考・判断・表現】 ◎「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。(A(1)ウ) 【言語活動例】 ・紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。(A(2)ア) 【態度】 ・積極的に姿勢や口形、発声や発音、声の大きさや速さなどに注意して、学習課題にそって挨拶をしようとしている。
					2	2. 挿絵をもとに、学校生活のさまざまな場面での挨拶や言葉のかけ方を練習する。 ＊隣の席の人と組みになり、役割を決めて挨拶の練習をさせる。 ＊言葉だけでなく、身ぶりや表情も交えながら、はっきりと話させる。姿勢や口形にも留意させたい。 ＊組みになり、双方が言葉をかけ合うことが大切である。 (例) A「だいじょうぶ?」 B「だいじょうぶだよ。」 など 3. みんなの前で挨拶をしたり、友達の挨拶を聞いたりして、よい挨拶の仕方を理解する。 ＊よくない例も教師が示し、考えを深めさせる。 ＊日常的に相手や場を考えて、すすんで適切な挨拶をしている姿を褒めて広げていく。	
1学期	4月	2 (話す聞く2)	わたしの なまえ 教科書:P8 ◇自己紹介の場面の挿絵をもとに、話し方や聞き方について話し合い、言語生活を広げる。	話聞	1	1. P8を見て、学習のねらいと流れを知る。P9で名前を書く練習をする。 2. 自分の名前をカードに書く。好きな絵を描きたす。 ＊紹介活動後、教室内に掲示できるように、画用紙などの大きめの用紙を用意する。まちがえたときのために、多めに用意しておくとうい。 ＊名前は、ゆっくり大きく書くように指導する。名前のほかに、自分の好きなことなどの絵を描く(好きな花、動物、大切なものなど)。 3. 隣の人と名前カードを見せながら紹介し合う。 ＊紹介の仕方を練習させる。「私は〇〇です。よろしくお願ひします。」など、二文程度言えるとよい。第一声がなかなか出ない子には、教師がそばで言葉をそえるなどして、勇気づける。	【知識・技能】 ○音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。(1)イ) 【思考・判断・表現】 ◎「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。(A(1)ウ) 【言語活動例】 ・紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。(A(2)ア) 【態度】 ・積極的に姿勢や口形、発声や発音、声の大きさや速さなどに注意して、学習の見通しをもって名前を紹介し合おうとしている。
					2	4. 学級のいろいろな児童とすすんで名前を紹介し合う。 (1)座ったままで、前後の友達と紹介し合う。 (2)席を離れて、自分から相手を見つけて紹介し合う。 ＊スモールステップで少しずつ紹介する相手を広げていくようにする。 ＊安全面に留意し、席を離れて動くときは歩くように指導する。 ＊紹介できた人数を○で記録したり、シールを貼ったりして励みになるよう工夫する。 ＊慣れてきたら、自分の得意なことや「今度一緒に遊ぼう。」など、自分で考えた言葉をそえさせる。 ＊自分から声をかけられない児童には、一緒に声をかけ、周りの子へはたらきかける。	

1学期	4月	2	おはなし たくさん ききたいな 教科書:P10 △さまざまな本の読み聞かせを通して、読書に親しみ、いろいろな本があることを知る。 ☆学習用語:お話	読書	1・2	1. 教科書の挿絵を見て、知っている本について話し合う。 ＊ 登場人物やあらすじ、おもしろさなど、知っていることのつぶやきを大切に する。 2. 絵本の読み聞かせを聞く。 ＊ 挿絵にある絵本は、読んでもらった経験のある児童が多いと思われる。 絵本の題名や登場人物などを発表させる。また、好きな絵本を発表させるな どしながら、読み聞かせの経験を想起させ、絵本への関心を高める。 ＊ 読み聞かせをした絵本は、教室内に展示しておく、自分でも読んでみよ うという意欲が高まる。 3. 絵本の読み聞かせを聞き、好きな場面について、簡単な感想を発表す る。 ＊ おもしろかったところを自由に発言できるようにする。 ＊ 本時に限らず、日常的に読み聞かせを行い、読書への関心を高めていき たい。	【知識・技能】 ◎読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。((3) 工) 【言語活動例】 ・読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想 などを伝え合ったり、演じたりする活動。(O(2)イ) 【態度】 ・積極的に読書に親しみ、学習の見通しをもって、好きな場面 について感想を発表しようとしている。
1学期	4月	1 (話す聞く1)	こえの おおきさ どれくらい 教科書:P12 ◇挿絵をもとに、場面に応じた話し声の大きさを意識する。 ☆学習用語:声の大きさ	話聞	1	1. 教科書の挿絵を見てどういう場面か、声の大きさはどれくらいがよいか、話し合う。 ＊ 声のものとさし対応させながら考える。教室に掲示し、日常的に声の大きさを意識させたい。 ＊ なぜ声の大きさを考える必要があるかを問い、場面に応じた話し方が大切だと気づかせる。 2. 実際に声の大きさを考えてやってみる。 ・隣の人と話すとき ・班のみんなに話すとき ・教室全体に向けて話すとき ・校庭で遠くの友達を呼ぶとき ＊ 夢中になるとつい大声になってしまう児童もいれば、恥ずかしがって小さな声しか出せない児童もいる。実態は一人一人違うが、場面を想定して楽しく活動できるよう工夫する。 ＊ それぞれの場面で何を話すのか、言葉を決めてから活動に移ると話しやすい。	【知識・技能】 ○音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。((1)イ) 【思考・判断・表現】 ◎「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。(A(1)ウ) 【言語活動例】 ・紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。(A(2)ア) 【態度】 ・積極的に伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫して、学習の見通しをもって話そうとしている。
1学期	4月	3	かいて みよう 教科書:P14 △正しい鉛筆の持ち方、正しい姿勢に気をつけて、線をなぞったり文字を書いたりする。	言語	1	1. 文字を書くときの正しい姿勢と鉛筆の持ち方を知る。 (1)挿絵や写真を見て正しい鉛筆の持ち方、正しい姿勢に気をつけて、線をなぞる。 (2)姿勢と鉛筆の持ち方に気をつけて、運筆練習をする。一画ずつ丁寧にそって書く。 ＊ 入門期に、鉛筆の持ち方をきちんと指導することが大切である。全体に指示するだけでなく、一人一人の持ち方を個別に見て指導する。 ＊ 鉛筆の持ち方、姿勢の写真を教室に掲示し、日常的に指導を続ける。曲がり方・丸め方、止め・払いをゆっくり丁寧に書かせる。 2. 教科書の言葉を読んだり、挿絵と言葉に対応させたりして平仮名「く」「つ」を練習する。 ・書き方を見る ・教師と一緒に空書きする ・教科書をなぞる→ワークシート→ノート	【知識・技能】 ◎平仮名を読み、書いている。((1)ウ) 【態度】 ・すすんで平仮名を読んだり書いたりし、学習課題にそって言葉を書こうとしている。
					2・3	3. 教科書の言葉を読んだり、挿絵と言葉に対応させたりして、平仮名「り」「と」を練習する。 ・書き方を見る ・教師と一緒に空書きする ・教科書をなぞる→ワークシート→ノート 4. 平仮名「い」「し」「の」を練習し、組み合わせを変えて他の言葉も書く。 ＊ 習った文字を組み合わせで違う言葉を書くことで語彙が広がる楽しさを実感させたい。 ＊ P17「ほかにも かけるかな。」では、挿絵と言葉に対応させて平仮名を読む。他には「くし」「つの」などがある。	
1学期	4月	1 (話す聞く1)	こえを あわせて あいうえお 教科書:P18 ◇姿勢や口形、声の大きさや速さなどに注意してはっきりした発音で読む。	話聞	1	1. 「こえを あわせて あいうえお」を、教師のあとについて音読する。 ＊ 何度も読ませ、声の速さや、はっきりした発音などに慣れさせる。 2. 「こえを あわせて あいうえお」を音読し、リズムのよさや全員で声を合わせる楽しさを味わう。 ＊ 覚えてしまうほどに繰り返し読むと、姿勢や口形に気をつける余裕が出てくる。 ＊ 単に大声を出すのではなく、声をそろえるように指導したい。全員で読む、列ごとに交代で読むなど、読み方に変化をつける。 ＊ 友達の読みを聞くことも大事にしたい。	【知識・技能】 ◎語のまとまりや言葉の響きなどに気付けて音読している。((1)ク) 【思考・判断・表現】 ◎「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。(A(1)ウ) 【言語活動例】 ・紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。(A(2)ア) 【態度】 ・積極的に姿勢や口形、発声や発音、声の大きさや速さなどに注意して、学習課題にそって音読しようとしている。

	1学期	5月	1	あいうえおを つかおう 教科書:P20 △母音や簡単な平仮名を正しく読んだり書いたりするとともに、音節と文字の関係に気づき、姿勢や口形、発声や発音に注意して話す。	言語	1	1. 挿絵を参考にしながら、「あいうえお」で始まる言葉を見つけ、声に出して読む。 * 二音または三音で構成されている言葉を、口の形を意識しながらはっきりとした発音で読ませる。 * 読むときに、同時に手をたたくと、音数を意識することができる。 例:「あり(パンパン)」「あひる(パンパンパン)」 2. 姿勢・鉛筆の持ち方に気をつけて、平仮名を丁寧に書く。 * 筆順に気をつけて、ゆっくりと書くようにさせる。書く前に、大きく空中に書くようにし、筆順を確かめる。 * 板書では、絵を多く見せたり、平仮名を大きく書いたりする。特に、この時期は文字を多く配置しないよう留意する。	【知識・技能】 ◎音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。((1)イ) ○平仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使っている。((1)ウ) 【態度】 ・積極的に音節と文字との関係に気づき、学習の見通しをもって平仮名を読んだり書いたりしようとしている。
	1学期	5月	3 (話す聞く3)	みつけて はなそう、はなしを つなごう 教科書:P22 ◇挿絵をもとに話題を見つけて話し合い、相手の話題に対して、簡単なことを尋ねたり応答したりする。	話聞	1	1. 挿絵を見て、誰がいるか、どんなことをしているかなどを話し合う。 * 挿絵をもとに楽しく会話する学習であることを知らせる。 * 挿絵を見て気づいたことを自由に発表させながら、興味を高めていく。 ・誰がいるか。 ・どんな遊びをしているか。 ・どんな生き物がいるか。 など	【知識・技能】 ○言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。((1)ア) 【思考・判断・表現】 ◎「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつないでいる。(A(1)オ) 【言語活動例】 ・尋ねたり応答したりするなどして、少人数で話し合う活動。(A(2)イ) 【態度】 ・積極的に互いの話に関心をもち、学習の見通しをもって尋ねたり応答したりしようとしている。
				2		2. 挿絵から話題を見つけ、二人で組みになって話したり、話を聞いて尋ねたりする。 * 細かい部分にも目を向けさせたい。挿絵の中の話題だけでなく、自分が好きなことや今後やってみたいことなど、挿絵から離れた発展した話題が出るとよい。		
				3		3. 前時と二人の組み合わせを変えて、いろいろな話題で話し合う。 * 挿絵のように、相手の言葉を受けて答える双方向の会話になるよう留意する。		
	1学期	5月	2 (書く1)	かきと かぎ 教科書:P24 △清音と濁音、半濁音の違いを理解して、正しく文を書く。 ☆学習用語:丸(。)/文	言語	4	4. 挿絵と言葉を対応させながら、清音・濁音・半濁音の言葉を声に出して読む。 (1)書き順に気をつけながら新出文字を書く。 (2)濁点の書き方を理解する。 * 清音・濁音・半濁音の言葉を読み、書き方に気をつけて書く。P25の言葉遊びの詩をリズムよく音読させる。	【知識・技能】 ◎句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使っている。((1)ウ) ○文の中における主語と述語との関係に気付いている。((1)カ) 【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) 【言語活動例】 ・簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。(B(2)ウ) 【態度】 ・積極的に濁音・半濁音の表記、句点の打ち方を理解し、学習課題にそって簡単な文を書こうとしている。
				5	5. 主語・述語に気をつけて、文を書き、文の終わりに句点(。)をつける。 (1)P25の「やぎがいる。」をなぞる。 (2)主語と述語を考えて簡単な文を作る。 * 提示された文を声に出して読み、ノートに書かせる。P22・23の挿絵を参考にしながら、主語と述語の簡単な文を考えて、発表させる。 * 練習の活動として、主語を決めて述語にあたる部分に言葉を入れさせたり、慣れてきたら述語にあたる言葉を決め、主語を考えさせたりするような、主語と述語の照応を意識づける活動を取り入れてもよい。また、文末を現在進行形や過去形で表現しても、ここではこだわらない。			
	1学期	5月	2	ことばを あつめよう 教科書:P26 △言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、言葉を考えて読んだり、書いたりする。 ☆学習用語:言葉	言語	6・7	6. 挿絵を見ながら、提示された言葉を読む。 (1)書き順に気をつけながら新出文字を練習する。 (2)平仮名を、挿絵と対応させながら声に出して読み、書く。 7. 新出の平仮名の書き方を理解し、正しく書く。 * 語句としての意味のまとまりを考えながら書かせる。 * 「そ」「ぬ」「み」は折れや曲がりに気をつける。「ぬ」「み」は書きだす位置に気をつけると形が整いやすい。	【知識・技能】 ○平仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使っている。((1)ウ) ◎身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付く、語彙を豊かにしている。((1)オ) 【態度】 ・身近なことを表す語句の量をすすんで増やし、学習の見通しをもって言葉を読んだり書いたりしようとしている。
	1学期	5月	3	くまさんと ありさんの ごあいさつ 教科書:P28 □登場人物の様子を考えながら、楽しく音読する。	読む	1	1. お話の概要をつかんで、楽しく音読する。 (1)挿絵を参考に、誰が出てくるか、どんな様子かなど話の大体をつかむ。 (2)教師の範読を聞き、お話の概要を知る。 (3)語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読する。	【知識・技能】 ◎語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。((1)ク) 【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(C(1)イ) 【言語活動例】 ・読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。(C(2)イ) 【態度】 ・すすんで場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉え、学習の見通しをもって音読を楽しもうとしている。
				2		2. 登場人物の様子を想像しながら、工夫して音読する。 (1)どんな「くまさん」と「ありさん」か、想像したことを発表する。 (2)「くまさん」と「ありさん」の言葉を確認め、どのように読むとよいかを考え、声の大きさや読む速さ、間を工夫して音読する。		
				3		3. 音読を発表したり、友達の音読を聞いたりして、音読を楽しむ。 (1)さまざまな形態で音読を楽しむ。 (2)友達の音読に興味をもって聞く。		
	1学期	5月	2 (書く1)	ねこと ねっこ 教科書:P32 △促音の読み方と書き方、句読点の使い方を理解する。	言語	4	4. 挿絵を見ながら、促音のついた言葉とつかない言葉を、読んだり書いたりする。 (1)手拍子を打ちながら、音節を意識して音読する。 (2)促音の表記の仕方を知り、ノートやワークシートに書く。	【知識・技能】 ◎促音の表記、助詞の「は」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使っている。((1)ウ) ◎文の中における主語と述語との関係に気付いている。((1)カ) 【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) 【言語活動例】 ・簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。(B(2)ウ) 【態度】 ・積極的に促音の表記、読点の使い方を理解し、学習課題にそって簡単な文を書こうとしている。
				5	5. 助詞「は」の使い方、読点(、)や句点(。)の打ち方に気をつけて文を視写する。挿絵を参考に、簡単な文を考えて書く。 (1)考えた文「……は、……。」をノートに書く。 * 助詞の「は」は、「ワ」と読み、言葉と言葉をつなぐはたらきをしていることをおさえたい。助詞の「は」は文節のくぎりははっきりさせている。 * このあとの教材でも助詞の「は」について復習する機会があるので、ここでは言葉をつなぐはたらきを意識づけるにとどめてもよい。 * 主語と述語で構成された簡単な文を考え、句読点を正しく入れて文を書かせる。教師がゆっくり板書し、それを見てノートに書かせる。			

1学期	5月	3	ほんを よもう 教科書:P34 △読みたい本を探して読んだり、読んだ本について友達や教師に話したりして、読書に親しむ。	読書	1	1. 教科書に紹介されている絵本の表紙や題名を参考に読みたい本を選び、読み聞かせを聞いたり、自分で読んだりする。 * ふだんから読み聞かせをし、絵本への興味を高めておく。 教室に絵本を置き、いつでも手に取れる読書環境を整えておくことも大切である。 * 教科書で紹介されている絵本は、できるだけ地域の図書館などを活用し、実物を用意したい。	【知識・技能】 ◎読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。(C3)エ 【言語活動例】 ・読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。(C2)イ 【態度】 ・積極的に読書に親しみ、学習の見通しをもって感想を伝え合おうとしている。
					2・3	2. いろいろな本を読み、おもしろかったところを友達と伝え合う。 * 学校図書館の絵本コーナーに行き、活動させるとよい。 * 本を選べない児童には、個別に声をかけ、教師と一緒に読んだり、興味をもちそうな本を薦めたりする。 * 気に入ったページを見せながら、おもしろいところを伝えるようにさせると、交流が具体的になる。 * 児童のお薦めの絵本は、児童の名前とともに教室に展示すると、いろいろな本を読んでみようという意欲が高まる。	
1学期	5月	2 (書く1)	ことばを つなごう 教科書:P36 △意味による語句のまとまりを考えて、つながる言葉を書く。	言語	4・5	3. 挿絵を見ながら、矢印の向きにそって提示された言葉を読み、空欄にどんな文字が入れば言葉がつながるかを考える。 * 新たに提出された平仮名十文字を、挿絵と対応させながら意味を考えて声に出して読ませる。空欄には、どんな文字が入ればよいか、考えて発表させる。 4. 新出の平仮名の書き方を理解し、正しく書く。 (1)新出の平仮名の練習をする。 (2)「を」の読み方や使い方を知り、「……を……。」の文を考えて書く。 * 新たに提出された十文字の平仮名の書き方を理解し、語句としての意味のまとまりを考えながら、正しく書かせる。 * 「を」は「オ」と読み、助詞以外で使われることはないが、必ず言葉について言葉どうしをつなぐ役割があることをおさえたい。なお、助詞のはたらきについては、このあとの教材でも扱う機会があるので、少しずつ使い方に慣れさせていけばよい。	【知識・技能】 ◎身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。(1)オ 【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B1)ウ 【言語活動例】 ・簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。(B2)ウ 【態度】 ・身近なことを表す語句の量をすすんで増し、学習課題にそって言葉を読んだり書いたりしようとしている。
1学期	5月	1	たのしく よもう 1 あいうえおの うた 教科書:P38 △様子を思い浮かべながら、リズムよく音読する。	言語	1	1. 言葉のまとまりや意味を考えたり、リズムをつかんだりして、『あいうえおの うた』を楽しく音読する。 * 範読で、心地よいリズムやアクセント、イントネーションなどを意識させる。 2. 一人で読む、斉読する、交代で読むなど、さまざまな読み方で音読を楽しむ。 * 声をそろえる、あ行、か行と列ごとに交代して読む、教師と交互に読み合うなど、読み方に変化をつけると、繰り返し音読を楽しめる。 3. 『あいうえおの うた』を視写する。 * 視写をとおして、平仮名の五十音を正しく書くようにする。 * 全文を視写するのは負担が大きいため、詩の一部を視写するワークシートを準備するなど、実態に合わせて取り組ませる。	【知識・技能】 ○音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。(1)イ ◎語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(1)ク 【態度】 ・語のまとまりや言葉の響きなどにすすんで気をつけ、学習の見通しをもって音読しようとしている。
1学期	5月	1	ごじゅうおん 教科書:P40 △五十音表を見て、平仮名の学習を振り返るとともに、五十音表の基本的な特徴に気づく。 ☆学習用語:五十音	言語	2	4. 五十音表を見て、平仮名を縦に音読したり、横に音読したりする。 * 写真の口形を参考に、はっきりとした発音、口形、姿勢で読む。縦に読んだり、横に読んだりして、気づいたことを発表させる。 * 濁音・半濁音の列も、声に出して読ませる。 5. 書きにくい平仮名や、まちがいがやすい平仮名を取り上げて練習する。	【知識・技能】 ◎長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使っている。(1)ウ 【態度】 ・積極的に平仮名を読み、今までの学習を生かして五十音表の特徴に気づこうとしている。
1学期	5月	5	けむりの きしゃ 教科書:P42 □文章と挿絵を結びつけながら、場面の様子について人物の行動を中心に想像を広げながら読む。	読む	1	1. 挿絵を見ながら教師の範読を聞き、感想を発表する。 * 全文を読む前に四つの場面の挿絵を見て、概要をつかませる。 2. 全文を音読する。	【知識・技能】 ◎語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(1)ク 【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(C1)イ 【言語活動例】 ・読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。(C2)イ 【態度】 ・すすんで場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉え、学習の見通しをもって登場人物に手紙を書こうとしている。
					2	3. お話のあらすじをつかみ、各場面の挿絵をもとに、あらすじを説明する。 * 挿絵をもとに教師がリードしながら、全体であらすじを確認する。やり方がわかったら、自分の言葉であらすじを言い、友達に聞いてもらう。	
					3	4. おじいさんの人柄を考える。 * 場面の様子やおじいさんの行動から、人柄を想像させる。	
					4	5. 空へ上っていく流れ星と、それを見ているおじいさんの、それぞれの言葉を想像する。 * 流れ星の言葉から、流れ星の感謝の気持ちを想像させる。音読の仕方を工夫させるとよい。 * 「」は、会話文につく記号であることを理解させる。	
					5	6. 登場人物に手紙を書き、発表し合う。 * 物語全体を振り返ってから手紙を書かせるようにする。	

1学期	5月	2	のばす おん 教科書:P48 △長音の読み方と書き方を理解する。 ☆学習用語: 伸ばす音	言語	6	7. 長音の読み方や書き方を理解し、長音の入ったいろいろな言葉を、読んだり書いたりする。 ＊ エ列長音の「とけい」やオ列長音の「おとうさん」のように、表記と読み方が違う言葉がある。何度も読みながら慣れるようにする。特にエ列長音は、「え」で表記するのは「おねえさん」「ええ(応答)」のみで、「い」と表記する例外のほうが多い。児童に慣れさせるためにも、言葉が出てきたときに、そのつど注意を喚起させたい。	【知識・技能】 ○音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。((1)イ) ◎長音の表記を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使っている。((1)ウ) 【態度】 ・積極的に長音の表記の仕方を理解し、学習課題にそって長音を含んだ言葉を読んだり書いたりしようとしている。
					7	8. P49の長音の入った詩をリズムよく読んだり、視写したり聴写したりする。 ＊ 促音と同様、長音も一音(一拍)を数えることを意識づけたい。言葉を読むときには、手で拍子を取るなど工夫することが大切である。 ＊ 教科書に提示された他にも、長音の入った言葉を用意し、示すとよい。児童にも発表させ、読ませたり視写させたりする。	
1学期	6月	3 (書く3)	せんせい、あのね 教科書:P50 ■経験したことや想像したことなどから書くことを見つけ、先生に話しかけるかたちの簡単な文章を書く。	書く	1	1. 挿絵をもとに見通しをもち、伝えたいことを文に書くことを知る。 (1)身近なできごとから、伝えたいことを見つけ、簡単な文に書くことを知る。 (2)P51の文例を読み、視写する。	【知識・技能】 ○長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使っている。((1)ウ) ◎文の中における主語と述語との関係に気付いている。((1)カ) 【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) 【言語活動例】 ・身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。(B(2)ア) 【態度】 ・すすんで主語と述語との関係に気づこうとし、学習の見通しをもって簡単な文章を書こうとしている。
					2	2. 最近のできごとの中から伝えたいことを決める。 ＊ 相手意識を明確にもたせ、うれしかったこと、がんばったことなど、心に残ったことを思い起こさせる。 ＊ 伝えたいことを隣どうしや全体で話し合うことで、題材を決めやすくする。 3. 伝えたいことを書き、交換して読み合う。 (1)伝えたいことを話し言葉で文に書く。「せんせい、あのね」の書き出しで書く。 ＊ 児童が発表した話し言葉を、そのまま文に表す。書く抵抗をなくすために大事なステップである。 (2)書き終わったら、声に出して読み返し、直すところがあれば直す。 (3)書き終わった人どうしで、交換して読む。	
					3	4. 「……は、……へ……。」の文例を読み、ノートやワークシートに視写する。 5. 同じかたちの文を読んだり書いたりし、文に慣れる。 ＊ 児童の書く文章は、「せんせい、あのね……」の口語体のままでよい。	
1学期	6月	4 (話す聞く4)	みんなに はなそう 教科書:P52 ◇身近なことや経験したことから話題を決め、必要なことを思い出して、順序を考えて話す。	話聞	1	1. 挿絵を見て、学習のねらいや方法を確認める。身近なことや経験したことの中から、どんなことを話すか、話題を考える。 ＊ 挿絵を見て、絵の二人が何を話しているか考えさせる。 ＊ 話題を決める前に、身近なことや経験したことを、対話形式で話し合いながら十分掘り起こす。 ・好きな食べ物や得意なこと ・できるようになったこと ・大切なもの ・楽しかったこと など 2. 話題が決まったら、題名をノートに書く。	【知識・技能】 ◎丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れている。((1)キ) 【思考・判断・表現】 ◎「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(A(1)ア) ○「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。(A(1)ウ) 【言語活動例】 ・紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。(A(2)ア) 【態度】 ・積極的に丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけ、今までの学習を生かして身近なことを話そうとしている。
					2・3	3. 話したいことを絵に描き、それをもとに二文程度の文を作り、発表の準備をする。 ＊ 発表の前に、教師は一人一人の話を事前に確認する。 ＊ 発表に抵抗感がある児童には、事前に話の内容や話し方を確認し、評価する言葉や励ましの言葉をかけて、自信をもって発表できるようにしておく。	
					4	4. グループで発表し、感想やよいところを伝える。 ＊ 話の聞き方は「聞き方のあいうえお」(あいてをみて、いいしせいで、うなずきながら、えがおで、おわりまできこう)などの約束を決めておくとうい。 ＊ 発表でつまずきがちな児童には、前時までに伝えた励ましの言葉を思い出させるとともに、教師が傍らであいつちをうったり、発表原稿を見てもよいことを伝えたりして、支援する。 5. 全体で代表者が発表する。 ＊ 各グループ一名程度。	
1学期	6月	1	たのしく よもう 2 がぎぐげごの うた 教科書:P54 △様子を思い浮かべながら、リズムよく音読する。	言語	1	1. 言葉の意味を考えながら、『がぎぐげごの うた』をリズムよく楽しく音読する。さまざまな読み方で何度も音読する。 ＊ 範読で、イントネーションやリズムのよさをつかませる。 ＊ 音読する際には、姿勢や口形、声の大きさ、速さに注意しながら読むように声をかける。 ＊ 斉読、が行、ざ行と列ごとに交代で読む、教師と交互に読む、隣どうしで読む、一人で読むなど、音読の方法を変えながら、繰り返し音読させる。 2. 『がぎぐげごの うた』を視写する。 ＊ 視写をおとして、濁音・半濁音の文字を正しく書けるようにする。 ＊ 視写が負担にならないように、実態に応じて部分を視写させるなどの配慮をする。	【知識・技能】 ○長音、拗音、促音、撥音などの表記を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使っている。((1)ウ) ◎語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。((1)ク) 【態度】 ・語のまとまりや言葉の響きなどにすすんで気をつけ、学習の見通しをもって音読しようとしている。

1学期	6月	4 (書く4)	よくみて かがう 教科書:P56 ■身近なものを観察し、気づいたことを簡単な絵や文で表し、書いたものを読み合って感想を伝え合う。 ☆学習用語:絵日記	書く	1 2・3 4	1. 身近で育てている植物などをよく見て、絵と文に表すことを知る。 (1)実際に観察し、特徴や小さな変化に気づく。 * 教師は、それぞれが観察しているところを見て回りながら、特徴や小さな変化に気づいた児童に声をかけ、褒めるようにする。 (2)全体の様子や気づいたこと、触った感じや自分の思いなどをカードに書く。 * 絵を描くことに夢中になりすぎないよう、絵を簡単に描くようにし、文を書く時間を確保する。 * 横書きの書き方(促音、拗音の位置)、文末の敬体表現を確かめる。 2. 絵に色を塗ったり、文を読み返してまちがいを直したりして、観察カードを完成させる。 * 書く観点やポイントを示す。三文程度をめやすとする。 ・日付、曜日、天気を書く。 ・自分の名前を書く。 ・全体の様子、よく見て気づいたこと、小さな変化や大きな変化を書く。 ・自分の願いや思ったことを書く。 3. お互いに書いたものを読み合う。 * 「いいな」と思ったことを書いた人に伝えさせる。 * 読み合う方法は、教室の壁などに掲示してもよいし、机上に置いて一人一人が席を移動しながら読み合うかたちでもよい。 * 「いいな」と思ったら、付箋やシールを貼るなどして目に見える形を残すようにい。	【知識・技能】 ○言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。(1)ア) ◎丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れている。(1)キ) 【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(B1)ア) 【言語活動例】 ・身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。(B2)ア) 【態度】 ・経験したことや想像したことなどからすすんで書くことを見つけ、学習の見通しをもって記録する文章を書こうとしている。
1学期	6月	6	すずめの ぐらし 教科書:P58 口問いの文や写真に導かれ、すずめについて説明した文章を読む。	読む	1 2・3 4・5 6	1. 題名からすずめについての興味を高めるとともに、学習への意欲をもつ。 * 題名をもとに、「すずめ」という身近にいる鳥や「ぐらし」という言葉の意味について、話し合う。 2. 「すずめは、どんなぐらしをしているのかな。」や「すずめは、どんなことをしているのかな。」等の、学習課題を共有する。 3. 文章のまとまりごとに、写真や問いの文を手がかりにしながら、『すずめの ぐらし』を読む。 (1)文章中の言葉と写真を関係づけながら、わかることを話し合う。 (2)写真からわかったことを手がかりに、問いの文「なにをしているのでしょうか。」の答えを予想する。 (3)答えの文を読み、写真とも結びつけて、文章の中の大事な言葉に着目して、内容を確認する。 6. 鳥もしくは動物について書いた絵本や図鑑を読み、初めて知ったことや不思議に思ったことを紹介し合う。 (1)身近な鳥や動物を中心に、もっと知りたいものについての絵本や図鑑を選ぶ。 (2)紹介の仕方を話し合う。 (3)友達と読んだ本や初めて知ったことなどについて、紹介し合うことをとおして、いろいろな本があることを知り、読書の楽しさを味わう。	【知識・技能】 ◎長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使っている。(1)ウ) ○文の中における主語と述語との関係に気付いている。(1)カ) 【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。(C1)ア) ○「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。(C1)ウ) 【言語活動例】 ・事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かったことや考えたことを述べる活動。(C2)ア) 【態度】 ・積極的に時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉え、学習の見通しをもってわかったことや思ったことを紹介しようとしている。
1学期	6月	2	しゃ、しゅ、しょ 教科書:P64 △拗音や拗長音の読み方と書き方を理解する。	言語	7 8	7. 清音と拗音との違いに気をつけて、拗音や拗長音の言葉を正しく音読する。 (1)教師の範読を聞いたあと、音読する。各自で読む、斉読する、縦や横の列ごとに読むなど、変化をつけて楽しく読む。 (2)拗音や拗長音、促音の入った言葉で手拍子をうち、確認する。 (3)「しゃしん」「あくしゅ」「しょっき」をノートに視写する。 8. 拗音や拗長音を含む言葉を読んだり、視写したり、集めたりする。 (1)「びょういん」と「びょういん」の違いに気づき、正しく視写する。 (2)P65の詩を音読し、ノートに視写する。 (3)拗音の入った言葉を集め、ノートに書く。	【知識・技能】 ○音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。(1)イ) ◎長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使っている。(1)ウ) 【態度】 ・積極的に拗音の表記の仕方を理解し、学習の見通しをもって拗音を含んだ言葉を読んだり書いたりしようとしている。
1学期	6月	1	たのしく よもう3 きやきゅきよの うた 教科書:P66 △様子を思い浮かべながら、リズムよく音読する。	言語	1	1. 言葉の意味を考えながら、『きやきゅきよの うた』をリズムよく楽しく音読する。さまざまな形態で何度も音読する。 * 範読で、イントネーションやリズムのよさをつかませる。 * 音読する際には、姿勢や口形、声の大きさ、速さに注意しながら読むように声をかける。 * 斉読、きや行、しゃ行と列ごとに交代で読む、教師と交互に読む、隣どうしで読む、一人で読むなど、音読のやり方を変えながら、繰り返し音読させる。 2. 『きやきゅきよの うた』を視写する。 * 視写をとおして、拗音の文字を正しく書けるようにする。 * 視写が負担にならないように、実態に応じて部分を視写させるなどの配慮をする。	【知識・技能】 ○長音、拗音、撥音などの表記を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使っている。(1)ウ) ◎語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(1)ク) 【態度】 ・すすんで語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけ、学習の見通しをもって音読しようとしている。

1学期	7月	9 (書く9)	しらせたい ことを かこう 教科書:P68 ■身近なできごとから知らせたいことを選び、簡単な文章を書く。	書く	1 1. 挿絵をもとに学習の見通しをもち、伝えたいことを文に書くことを知る。 (1)身近なできごとをもとに文章に書くことを知る。 (2)P68・69を読み、「誰に」「何を」伝えたいか考える。 (3)思いついたことを発表する。	【知識・技能】 ○長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使っている。(1)ウ) 【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) ◎「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けている。(B(1)オ) 【言語活動例】 ・身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きたことを書く活動。(B(2)ア)
					2 2. 伝えたいことを決める。 (1)話し合いを参考に、何を、誰に伝えるかを考える。 (2)隣どうして、何を誰に伝えたいか話す。 (3)全体にも紹介する。	
					3 3. 敬体で文を書くことを知る。 (1)P70の文例を読み、敬体で書くことを知る。 (2)いろいろな言い方を敬体に直す練習をする。	【態度】 ・経験したことから書くことを積極的に見つけ、学習の見通しをもって簡単な文章を書こうとしている。
					4～7 4. 伝えたい相手を決めて文章を書く。 (1)伝えたい相手を考えながら二文程度の文を書く。 ＊「は」「を」「へ」の使い方や敬体の書き方を確認する。 ＊原稿用紙の基本的な書き方を指導する。 (2)題名を決める。	
					8・9 5. 書いた文章を読み返し、清書したものを交流する。 (1)書いた文章を自分で読み返し、まちがいを直す。句読点や文字のまちがいに注意する。 (2)書き終わった人どうして読み合い、よかったところを伝え合う。 ＊ まちがいがいないか、自分で音読して確かめる。見直す観点を示すようにする。 6. 読んだ文章のよいところを伝え合い、自分の文章のよさに気づく。 ＊ お互いに読み合って感想を伝える。(よいところを見つけたら「シール」を貼る。)	
1学期	7月	2 (書く1)	は、を、へ 教科書:P72 △助詞の表記と語中の表記とを区別して理解する。 ☆学習用語:文	言語	10 7. P72・73の文を読み、助詞の「は」「を」「へ」の読み方と書き方を確かめる。 (1)例示された文を音読し、ノートに視写する。 (2)P72のありさんの詩を音読し、「は」「を」「へ」の読み方を確かめる。 ＊ 助詞の「は」「を」「へ」については、P33、P37、P51で扱ってきている。本学習は、最後のまとめの学習として位置づけている。 ＊ 「ワ」「オ」「エ」と読む文字を例文から見つけさせ、助詞については色つきの文字や色紙で区別して示すようにする。 ＊ 視写した語や文を音読して、正しく書けているかを確かめさせる。	【知識・技能】 ◎長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使っている。(1)ウ) ○文の中における主語と述語との関係に気付いている。(1)カ) 【言語活動例】 ・簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。(B(2)ウ)
					11 8. 助詞の「は」「を」「へ」を使って文を作る。 (1)全体で話し合って例をあげ、書き方を確認する。 (2)各自、ノートに文を書く。 ＊ 助詞「は」「を」「へ」は、身につくまで機会を見て繰り返し指導することが大切である。 ＊ 挿絵をもとに考えさせる。各自で文を作る前に教師は児童の意見を吸い上げて、一、二例板書する。	【態度】 ・積極的に助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方を理解し、学習の見通しをもって簡単な文を書こうとしている。
1学期	7月	2	としょかんへ いこう 教科書:P74 △図書館の基本的な利用方法を知り、興味のある本を探したり、紹介し合ったりする。	読書	1 1. 図書館のはたらきや利用の仕方を確かめる。 (1)図書館の利用経験を発表する。 ＊ 地域の図書館や学校図書館に行った経験を話し合い、図書館への興味を高める。 ＊ 図書館での約束や貸し出しのルール、基本的な配架法がわかる掲示物や手引きを用意する。 ＊ 特に学校図書館については、学校探検をした時の写真や、図書館の中を撮影した写真などを用意して、提示するとよい。 (2)実際に学校図書館へ行って本を読んだり、借りたりする。 ＊ 本を選べない児童には、教師が児童の興味や関心がある分野を聞き出したり、特設コーナーに置かれた本に注目させたりするなど、本を選ぶきっかけ作りについて助言する。	【知識・技能】 ◎読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。(3)エ) 【言語活動例】 ・読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。(C(2)イ)
					2 2. 読んだ本の中から気に入った本を一冊選び、紹介し合う。 ＊ 本を一冊読み聞かせ、紹介の仕方を全体で確認する。 ＊ 本を紹介する時は、紹介することで、友達にもその本への興味をもってもらえるようにすることを意識させる。 ＊ 全体の場でも数名に話をさせ、さらに読みたい本を見つけられるようにする。	【態度】 ・積極的に読書に親しみ、学習の見通しをもって本を紹介しようとしている。
1学期	7月	2	おはなしの くに 教科書:P75 △挿絵を見ながら昔話などに興味をもち、読書をする。 ☆学習用語:お話	読書	1 1. 挿絵からお話の世界にいざなう。 (1)P75～78を開き、どんな絵が描かれているのか話し合い、お話の世界であることを確かめる。 (2)挿絵を見ながら知っているお話について話し合い、読書への興味を高める。 ＊ 挿絵が昔話や童話の絵であることに気づかせる。知っているお話の題名やあらすじなどを発表させながら、読書傾向をつかんでおく。 ＊ 挿絵から読んでみたいお話を選ばせる。 ＊ 昔話は語り継がれてきたものであるので、題名や細部が異なるものもあることを伝える。	【知識・技能】 ○昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しんでいる。(3)ア) ◎読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。(3)エ) 【思考・判断・表現】 ○「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(C(1)イ) 【言語活動例】 ・読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。(C(2)イ)
					2 2. 好きなお話を選んで読む。 (1)学校図書館に行つて絵本を選び、読書をする。 (2)多くの絵本を読み、その中からお気に入りの一冊を選ぶ。 ＊ 気に入ったお話を紹介し合い、さらに読書意欲を高める。 ＊ 学校図書館の昔話が置いてある書架を知らせ、たくさんの昔話があることに気づかせ、もっと昔話を読みたいという意欲を高める。 (3)二人で組みになり、お気に入りの本を紹介し合う。 ＊ 『としょかんへ いこう』で学習した、本の紹介の仕方を振り返るとよい。 3. お話の読み聞かせを聞く。 ＊ たくさんの昔話を読み聞かせし、昔話のおもしろさ、独特の語り口調や言い回しに気づかせる。	【態度】 ・積極的に読書に親しみ、学習の見通しをもって本を読もうとしている。

1学期	7月	6	おおきな かぶ 教科書:P82 口繰り返しの展開を楽しみながら、場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げて読む。 ☆学習用語:訳	読む	1	1. 物語を概観し、学習の見通しをもつ。 (1)題名や挿絵から物語の内容を想像し、興味をもつ。 (2)教師の範読を聞きながら、本文を読み、気づいたことや興味をもったことを発表する。 (3)どんな内容か話し合う。 (4)音読の練習をする。	【知識・技能】 ◎語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(1)ク 【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(C(1)イ) ○「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C(1)エ)
					2～5	2. それぞれの場面を読んで、人物の行動を中心に想像を広げ、お話の展開を楽しみながら確認する。 ＊音読や動作化が効果的な教材である。リズムよく音読したり、登場人物の動きや様子を確認して動作化をしたりしながらお話の世界を十分に味わせたい。 ＊叙述の特徴や繰り返しの表現に着目することにより、かぶを引っばる力がだんだん大きくなっていくことをつかませる。 ＊「うんとこしょ、どっこいしょ。」の言葉のリズムを楽しみながら、同じせりふであっても場面によって違いがあるのか、ないのかについて考えさせたい。 ＊「それでも」「まだ まだ」「まだ まだ、まだ まだ」などの言葉に着目することにより、同じような場面が繰り返されていることを意識させ、言葉の違いによる場面の様子の違いを想像したり、次にどのような言葉がくると思うかを予想させたりすると学習活動が活性化する。	【言語活動例】 ・読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。(C(2)イ)
					6	3. 最後の場面をもとに、物語全体について感想をもつ。 ＊「やっと」という言葉から、登場人物の様子を想像させる。 ＊改めて、「やっと」に至るまでの「それでも」「まだ まだ」「まだ まだ、まだまだ」などの言葉について振り返ると、最後の場面の様子の想像が広がる。 4. お話を読んで思ったことを絵と文に書き、交流する。 ＊物語全体を通して、心に残ったことやおもしろかったことを感想に書く。	【態度】 ・場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体をすすんで捉え、学習課題にそって内容や感想を伝えようとしている。
1学期	7月	4 (書く4)	えにっきを かこう 教科書:P92 ■身のまわりのできごとや経験したことを、絵と文で表現する。 ☆学習用語:絵日記／思い出す	書く	1	1. 学習のねらいと流れをつかむ。 (1)教科書の絵日記を見て、どのようなものを書くのかイメージをもつ。 (2)挿絵を参考にしながら書くことを考え、隣どうして話し合う。 ・日曜日にしたこと ・楽しかったこと ・がんばったこと など (3)話したことをもとに、文章にすることを全体で確かめる。 ＊できごとを思い出すために、隣どうして会話して、書くことを考えさせる。 ＊書くことが焦点化できた組を指名し、どんなことが話題になったか発表させる。板書を整理しながら、話し合った話題が書くことにつながることを示す。	【知識・技能】 ◎長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使っている。(1)ウ 【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) ○「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。(B(1)イ)
					2・3	2. 自分の書きたいことを選び、絵日記に書く。 (1)したことのほかに、思ったことも入れるとよいことを知る。 (2)前時で話し合ったことを思い出し、題材を決めて絵と文章を書く。 ＊児童が体験したことの中から、絵日記にして友達に伝えたい事柄を選ぶようにさせる。	【言語活動例】 ・日記や手紙を書くなど、思ったことや伝えたいことを書く活動。(B(2)イ)
					4	3. 書いた絵日記を読み合い、感想を伝え合う。 ＊グループ内で交換して読ませ、互いに読み合った足跡が見えるようにする。 ・付箋によいところを書いて知らせる ・「いいねシール」を貼る など ＊読み合ったあとは、学級全員が読めるように、教室に掲示するなどの工夫をする。	【態度】 ・経験したことから書くことを積極的に見つけ、今までの学習を生かして絵日記を書こうとしている。
2学期	9月	5 (話す聞く5)	なつの おもいでを はなそう 教科書:P94 ◇相手の話の内容を受けて話したり、自分からすすんで話したりする。	話聞	1	1. P94・95の挿絵をもとに、挿絵はどんなことを表しているのか話し合う。 2. 学習のねらいを知り、学習の見通しをもつ。 ・夏休みのできごとを話題にすること。 ・実物や絵、写真などを持って話すこと。 ・グループ内で発表し、聞く人も質問や感想を言うこと。 ＊一学期の学習、『みんなに はなそう』で行った、身近なできごとをグループで発表したことを想起させる。 3. 自分たちの夏休みのできごとを思い出して、交流する。 ＊隣どうして話し合わせたあと、全体で交流させる。	【知識・技能】 ○音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。(1)イ 【思考・判断・表現】 ◎「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(A(1)ア) ◎「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。(A(1)エ)
					2・3	4. P95の挿絵をもとに、どんな発表をするのか話し合い、発表の内容を決める。 ＊P95の発表例や質問・感想を読んで、具体的なイメージをもたせる。 5. 発表に必要なものを用意する。 ＊夏休み前に家庭に協力を頼んで、思い出の品や写真を用意してもらうようにする。 ＊発表で必要なものは、児童の実態に合わせて、実物や写真、絵など選ばせる。 6. 発表原稿を書く。 ＊三文程度の発表原稿を書かせる。 7. 発表の練習をする。 ＊発表原稿は話の内容を整理するためのもので、できるだけ発表のときは見ないようにさせる。 ＊発表原稿が書けたら、微音読等も行いながら、読み返して完成させる。完成したら発表の練習をして、友達や教師に聞いてもらい、話し方や語順等の修正を行わせる。	【言語活動例】 ・紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。(A(2)ア)
					4・5	8. 「夏の思い出発表会」をする。 (1)話すとき、聞くときのきまりや発表会の流れを確認する。 ＊質問や感想を考えながら話を聞くことや、最後まで聞くことを指導する。 (2)グループごとに発表会をする。 ＊余裕があれば、グループを組みかえて発表してもよい。保護者を招待するなどして発表の場を増やすと、達成感が得られるだろう。 (3)発表会を振り返り、感想を書く。	【態度】 ・話し手が知らせたいことを落とさないように積極的に聞き、学習の見通しをもって質問や感想を言おうとしている。

2学期	9月	2	かたかなの ことば 教科書:P96 △身のまわりの片仮名で書く言葉や表記を理解し、正しく書く。 ☆学習用語:片仮名／言葉	言語	6・7	9. P96の挿絵から片仮名で書く言葉を見つけて発表する。 * P96のます目に書いてある片仮名を読み、片仮名の言葉と絵を対応させる。 10. P96下段の例示を読み、書き順や形に気をつけてなぞったり、ノートに練習したりする。 * 一緒に何度も空書きをしてから、ノートに書かせる。 11. P97に示された語句を、声に出して読んだりなぞったりする。 * 平仮名と片仮名の長音・促音・拗音の表記の違いに気づかせる。 12. ノートに、書き順や形に気をつけて練習する。 * 筆順を示す数字や点画の方向を示す矢印に注意して練習させる。	【知識・技能】 ◎片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使っている。((1)ウ) ○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにしている。((1)オ) 【態度】 ・積極的に片仮名を学び、学習の見通しをもって片仮名を含んだ言葉を読んだり書いたりしようとしている。
2学期	9月	8	たのしく こえに だして よもう けんかした 山 教科書:P98 □場面の様子を想像しながら、お話を読む楽しさを味わう。 ☆学習用語:文／漢字	読む	1	1. 題名や挿絵をもとに、学習のねらいをつかむ。 (1)山の様子や言葉から、場面を想像して、お話を楽しむ。 (2)挿絵を見ながら教師の範読を聞き、あらすじをつかんだり、簡単な感想をもったりする。	【知識・技能】 ○当該学年に配当されている漢字を読んでいる。((1)エ) ◎語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。((1)ク) 【思考・判断・表現】 ○「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(C(1)イ) ◎「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C(1)エ) 【言語活動例】 ・読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。(C(2)イ) 【態度】 ・すすんで場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像しながら、今までの学習を生かして音読しようとしている。
			2～5		2. 山のしたことをもとに場面の様子を想像する。 ・いつもけんかをしている二つの山 ・どっと火を噴き出す山 ・雨でしょんぼり顔を見合わせる山 ・何年も何年も終ち、緑につつまれる山 * 山がけんかをしたわけについて考えさせる。		
			6		3. 物語でいちばんよいと思ったところ(心に残ったところ)を見つけ、なぜそこがよいと思ったのか考えて発表したりノートに書いたりする。 * お話全体を振り返って感想を書かせたり、登場人物に手紙を書かせたりする。		
			7		4. 音読発表会の準備をする。 (1)どんな会にするか話し合う。 (2)登場人物を確認し、グループで役割を決めて音読の練習をする。		
			8		5. 音読発表会をする。 (1)音読発表会のときに気をつけることを確認する。 (2)音読発表会をする。 * 音読発表会の前に、「みんなに聞こえるように読む」「様子がわかるように読む」など、どんなところを工夫して読むかを発表させる。		
2学期	9月	3 (書く1)	かん字の はじまり 教科書:P105 △漢字には、絵からできたものとしるしからできたものがあることを理解する。 ☆学習用語:漢字	言語	9	6. 漢字の成り立ちに関心をもち、「山」「月」「木」の漢字を、正しく読んだり書いたりする。 * それぞれの漢字を絵、絵文字、文字と結びつけさせ、絵からできた漢字であることを理解させる。	【知識・技能】 ◎当該学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使っている。((1)エ) 【言語活動例】 ・簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。(B(2)ウ) 【態度】 ・すすんで当該学年で配当されている漢字を読み、学習の見通しをもって漢字を含んだ文や文章を読んだり書いたりしようとしている。
			10	7. 「上」「下」の漢字を、正しく読んだり書いたりする。 * 「上」「下」はしるしからできた漢字(指事文字)であることを理解させる。			
			11	8. P107の上段に示された漢字が、どの絵と対応するか確かめ、漢字の由来を理解する。 * 絵文字を見て、それぞれどのようにしてできた漢字か、言葉で説明させる。 * 新出漢字を使ってできる文や文章を、読ませたり書かせたりする。			
2学期	9月	7	よんで たしかめよう だれが、たべたのでしょうか 教科書:P108 □問いの文と答えの文や写真と文の対応に気をつけながら、動物の食べ跡について説明した文章を読む。 ☆学習用語:だれが／なにを／どんな	読む	1	1. 動物たちが食べたあとの写真を見たり、題名を読んだりして、気づいたことを話し合い、この文章が説明していることの大体をつかむ。 2. 『だれが、たべたのでしょうか』を読んで、どんなことを知りたいかを共有する。 * まだ、本文にはふれず、写真と題名から考えたことを発表させ、次時の学習意欲を高める。	【知識・技能】 ◎文の中における主語と述語との関係に気付いている。((1)カ) 【思考・判断・表現】 ○「読むこと」において、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。(C(1)ア) ◎「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。(C(1)ウ) 【言語活動例】 ・事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かったことや考えたことを述べる活動。(C(2)ア) 【態度】 ・時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を積極的に捉え、学習の見通しをもってわかったことや思ったことを話そうとしている。
			2～4		3. 本文を音読したあとに、視写する。 4. 問いと答えの文や写真との対応に気をつけながら、食べあとと食べた動物やその食べ方を読みとる。 * それぞれの初めの写真が「問い」、次のページの写真が「答え」になっていることをおさえる。 * 「どのように食べたか」についても確認する。		
			5		5. 最後の段落を読み、これまでの学習を振り返りながら、文章の理解を深めたり、読み広げたりする。 * 「いろいろな どうぶつ」とは、これまでに学習した「ねずみ」「りす」「むさび」であることを理解し、この他にもいろいろな動物がいることを確認する。 6. P115の写真の食べあとの特徴を話し合ったり、食べ方を想像したりして、動物の暮らしについて話し合う。 * P115の下方にある二次元コードを読み込むと、「りすが くるみを たべたあと」「しかが きの かわを たべた あと」を用いることもできる。 * くるみ・松ぼっくり・木の葉の場合と比べて考え、写真の食べあとの特徴を話し合ったり、食べ方を想像したりして、動物の暮らしに対する興味を高めるようにする。		
			6・7		7. 動物について知っていることや絵本・図鑑などで調べたことを、問いと答えからなる簡単な文章で書き、紹介し合う。 * カードの表に問い、裏に答えのように構成して、問いと答えの対応を意識させることもできる。 * 「ぼんを よもう」や、巻末『1年生で よみたい 本 ①』を用いてもよい。		

2学期	9月	12 (書く12)	たのしかった ことを かこう 教科書:P116 ■日常生活の中から書くことを見つけ、簡単な文章を書く。 ☆学習用語:思い出す／漢字／したこと／伝える／「 」／言葉	書く	1 1. 学習の見通しをもつ。 (1)P116・117の挿絵や本文から、心に残ったできごとを思い出し、文章を書くことを知る。 (2)学校や家でのできごとで、楽しかったことやがんばったことなどを発表する。 (3)P117の「ここがだいじ」を読み、文章を書く時に、どんなことを思い出したらよいか確かめる。 2・3 2. 文例を読み、どんな文を書くのかイメージをもつ。 (1)かぎ(「 」)の使い方や題名、名前の書き方などを確認する。 (2)「ここがだいじ」が例示の文章にどう生かされているか、確認する。 4 3. 文章に書く内容を決め、書きたいことを思い出してメモやカードなどに書く。 5～10 4. 文章を書く。 (1)メモやカードを並べて、書く順番を決める。 (2)原稿用紙の書き方を知る。 (3)メモをもとに文章を書く。分量のめやすは、本文だけで百字、三文程度とする。会話は難しいが、入れることができるとよい。 (4)書いたら読み返す。まちがいがあれば直す。 11・12 5. 書いた文章を交流する。 (1)書いた文章を発表する。 (2)友達のよいところを見つけて伝え合う。 * よいところを見つける観点を確認する。	【知識・技能】 ◎長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「 」)の使い方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使っている。(1)ウ) 【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) ◎「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。(B(1)イ) ○「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) 【言語活動例】 ・身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。(B(2)ア) 【態度】 ・経験したことから書くことをすすんで見つけ、学習の見通しをもって文章を書こうとしている。
2学期	10月	5	かぞえよう かぞえうた 教科書:P120 △数え歌をもとにして、漢字を使った数の読み方に慣れるようにするとともに、一から十までの漢数字を正しく読み、書く。	言語	1 1. 言葉の意味を考えながら、リズムよく音読する。 * 挿絵を指さしながら、ものと数を確かめさせる。 * 全員で、一行ずつ、交互に、グループでなど、さまざまな形態で音読を楽しめるようにする。 2 2. 絵と言葉をもとに、数え方を確認する。 * 教科書の挿絵で絵カードを作成し、「…りん」「…かい」などの数え方を言えるようにさせる。 * 「一つ」「二つ」や「ーりん」「二かい」などを横に読み、正しく覚えられるようにする。 3 3. 数を表す漢字を声に出して読んだり書いたりする。新出漢数字を書き順に気をつけて正しく書く。 * 漢字カードを作成し、読み方や書き順、字形がよくわかるようにしておく。 * 『かぞえうた』の読み方と、漢数字の読み方との違いを確認する。 4 4. P122・123を見て、一から十までの漢数字を声に出して読む。挿絵を見ながら、助数詞をつけて漢数字を声に出して読む。 * 漢数字の数え方を声に出して練習したり、数を変えると助数詞の言い方が変わったりすることに気づかせる。 5 5. 漢数字を使って短い文をつくり、ノートに書いて発表し合う。 * 漢字の書き順を空書きさせ、正しく書けているか確認する。 * 身のまわりのもので、助数詞を使った短文を作らせる。 ・おにぎりを一こ食べた。 ・ひまわりの種を五つぶもらった。 ・猫を三びき、犬を一びき飼っている。 * 作った短文を交換して読み合い、漢数字の読み書きや助数詞の使い分けの練習をさせる。	【知識・技能】 ◎当該学年に配当されている漢字を読んでいる。(1)エ) ○長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付いている。(3)イ) 【態度】 ・すすんで漢字を読み、学習の見通しをもって文や文章の中で使おうとしている。
2学期	10月	2	たのしく こえに だして よもう あめの うた 教科書:P6 □定型から生まれるリズムや響き、オノマトペからのイメージの広がりをおして詩を楽しむ。 ☆学習用語:想像	読む	1・2 1. 詩を読み、雨(の音)について交流する。 * 雨が降ってきた時の経験を想起して、どんな音がしたかを思い出して「シャーシャー」などの擬音語で表現する。 2. 読み方を工夫して、繰り返し音読する。 * ペアやグループ、全体など組み合わせを工夫して音読を繰り返し、音読を楽しませる。 3. 第二連の、雨が当たった物と、そこから響いてくる音のイメージを話し合う。 4. 詩のイメージに合った振りつけを考える。 * ペアで考えたあと学級全体で振りつけを決め、動作を交えながら斉読させる。 5. 自分だったら、どんな音をイメージするか発表し合う。 * 言葉の楽しさとともに、どんな様子かを思い浮かべながら音読させる。 6. 自分たちの「あめの うた」を作り、発表し合う。 * 「ペランダ」「ものおき」「みち」など、児童の生活実態に合わせた対象に替えてよいことを知らせる。 7. 学習の振り返りをする。	【知識・技能】 ◎語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(1)ク) 【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C(1)エ) 【言語活動例】 ・読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。(C(2)イ) 【態度】 ・すすんで言葉の響きなどに気を付けて、学習の見通しをもって音読しようとしている。

2学期	10月	6 (書く6)	つたえたい ことを よく 見て、かこう しらせたいな、いきものの ひみつ 教科書:P8 ■生き物とふれ合ったことや見聞きしたことを思 い出し、伝えたいことを明確にして書く。 ☆学習用語: 伝える／メモ／様子／思ったこと	書く	1 〈見通しを もとう〉 1. 身のまわりの生き物について書いて、友達に知らせるという学習活動を見通す。 * 学校で飼育している動物や身近にいる生き物などを話題にし、興味関心を喚起する。生活科の学習と関連させるとよい。 * この単元における「ひみつ」の捉えを確認する。「ひみつ」とは、みんなが「あまり知らない」「知って驚く」こと。 * 児童とやりとりしながら学習の計画を立て、相手意識と目的意識を明確にする。 2 2. 生き物とふれ合ったことや見聞きした経験から、伝えたい生き物を決める。 * 日頃からよく面倒を見たりふれ合ったりした経験がある生き物から選ばせたい。 3 3. 生き物を観察して、気づいたことをメモに書く。 * P9を読み、メモと観察の視点を確認してから観察させる。 4・5 4. メモに書いたことから、伝えたいことを選び、書く。 * P9のメモとP10の例文を比較し、どのメモがどの文になったのか、「だいたいいいかた」がどこに使われているのかを確かめる。 * 書きたい内容と順序を決め、メモに番号を書いてから、記述させる。 6 5. 友達と読み合う。 * 自分の書いた文章のよさに気づくことができるよう、感想を伝え合わせる。 〈ふりかえろう〉 6. 生き物の秘密を伝えるためにどんなところに気をつけたか、めあてにそって振り返る。	【知識・技能】 ◎長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使っている。((1)ウ) 【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) 【言語活動例】 ・身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。(B(2)ア) 【態度】 ・すすんで生き物とふれ合ったことや見聞きしたことなどを「いきもののひみつ」として決め、学習の見通しをもって友達に伝えようとしている。
2学期	10月	6	一 だいたいな ことばを えらんで よみ、せつめ いしよう はたらく じどう車 教科書:P12 □「やくわり」と「つくり」に気をつけて、はたらく自動車について説明した文章を読む。 ★ここがだいい:なにに ついて かいて あるか、 かんがえる ☆学習用語: だいいなことば／やくわりの文／つくりの文	読む	1 〈見通しをもう〉 1. 単元名や誘いの文を読み、学習の見通しをもつ。 (1)『はたらく じどう車』における「だいいなことば」とは、どんな言葉を指すのかを考える。 * 一上『だれが、たべたのでしょうか』に書かれていた「だいいなことば」にはどんな言葉があったかを想起させる。 (2)教師の範読を聞き、どんな言葉が「だいいなことば」になるか、文中から選ぶ。 * 「だいいなことば」は、繰り返し出てくる言葉を見つけることがヒントになることを確認する。 2 〈たしかめよう〉 2. 『はたらく じどう車』には、どんな自動車が出てきたのかを確認する。 (1)書かれた順序にそって、「はたらくじどう車」の名前を確認する。 * 挿絵を提示し、視覚的に確認しやすくするとよい。 * バスやコンクリートミキサー車、ショベルカー、ポンプ車について知っていることや、もっと知りたいことを発表させることで、より興味を高める。 (2)本文の中に繰り返し出てくる言葉には、どのようなものがあったかを確認する。 * 「ですから」という言葉だけでなく、「はこぶ」という言葉や「じどう車です」という語にも着目させる。 3・4 〈くわしくよう〉 3. 一つ一つの自動車について、「やくわり」と「つくり」を表にまとめる。 (1)それぞれの自動車にどのような「やくわり」と「つくり」があるのか、考えて選び出す。 (2)本文に出てくる自動車の「やくわり」と「つくり」の繋がりを説明する。 * 「やくわり」とつながりのない「つくり」もあることを確認するとよい。例えば、バスが人を運ぶ「やくわり」があることと、車体の色が白である「つくり」は、つながりがないことなど。 (3)バス・コンクリートミキサー車・ショベルカー・ポンプ車の乗り物の説明の仕方、似ているところを考える。 * 「ですから」という言葉が繰り返しでてきたことで、「つくり」がわかりやすくなっていることを友達どうして説明する。 5・6 〈まとめよう〉 4. もっと知りたいと思ったことを考える。 * 本文に登場する自動車や、その他の「はたらくじどう車」について、もっと知りたいと思ったことを書き出させるとよい。 〈つたえあおう〉 5. もっと知りたいと思ったことを友達に話したり、書いたことを読み合ったりする。 (1)もっと知りたいと思ったことを二人組で伝え合う。 (2)伝え合って参考になったことや、新たに自分も知りたいと思えたことを書き足す。 〈ふりかえろう〉 6. 「ふりかえろう」を参考に、学習全体を振り返る。 (1)上手に説明する「こつ」について、友達どうして確かめる。 (2)役割とつくりが対応するか、気をつけたいことを交流する中で確かめる。	【知識・技能】 ◎身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。((1)オ) 【思考・判断・表現】 ○「読むこと」において、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。(C(1)ア) ◎「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。(C(1)ウ) 【言語活動例】 ・事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かったことや考えたことを述べる活動。(C(2)ア) 【態度】 ・すすんで語句の量を増やそうとしたり、順序を考えたりして内容の大体を捉え、わかったことや知りたかったことを伝えようとしている。

2学期	11月	10 (書く10)	ー だいじな ことばを えらんで よみ、せつめいしよう 「のりものカード」で しらせよう 教科書:P20 ■乗り物について、「のりものカード」(メモ)を用いて、簡単な構成の説明の文章を書く。 ★ここが だいじ:ぶんしょうをかく ☆学習用語:メモ／文章／読み返す	書く	1 〈見通しをもとう〉 1. 乗り物の「やくわり」「つくり」「できること」を書いて、友達に知らせる学習活動について見通す。 * 前教材『はたらく じどう車』の学習とつなげたり、知っている乗り物を想起させたりして興味・感心を喚起する。 * 児童とやりとりしながら大まかな学習計画を立てる。P20の「がくしゅうのすすめかた」を見て参考にするとよい。 くきめよう・あつめよう 2. 友達に知らせたい乗り物を決める。 * 資料を読むうちに知らせたい乗り物が変わる可能性もある。児童の思いを大切に、柔軟に対応したい。 2～4 〈くみたてよう〉 3. 「やくわり」「つくり」「できること」を調べ、メモに書く。 * 絵本や図鑑などの資料を読み、「やくわり」「つくり」「できること」を調べさせ、短い言葉でメモに書かせる。 * 必要に応じて、目次を利用するなどの調べ方について教える。 * 友達とメモを読み合ったり質問し合ったりして、選んだり物の「やくわり」と「つくり」や「できること」が対応しているのかを確かめさせる。 5・6 〈かこう〉 4. メモをもとに「のりものカード」を書く。 * P22の下段に書かれている例文を提示する。メモが「のりものカード」のどこにつながっているのかを理解させる。 7・8 〈よみかえそう〉 5. 「のりものカード」を声に出して読む。 * 句読点は正しく書けているか、字のまちがいがいがないか確かめさせる。P158巻末付録『ぶんしょうを よみかえす とき』も参考にさせたい。 9 〈つたえあおう〉 6. 友達と読み合う。 * 友達の作品を読んだらサインをする、シールを貼るなど交流の跡が視覚的にわかるようにするとよい。 * できるだけ多くの友達の作品が読めるように、一人一台端末の活用なども視野に入れ、交流の仕方を工夫したい。 10 〈ふりかえろう〉 7. どんなことに気をつけて「のりものカード」を書いたか、めあてにそって振り返る。
-----	-----	--------------	---	----	---

【知識・技能】
◎長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使っている。(1)ウ)

【思考・判断・表現】
◎「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。(B(1)イ)

【言語活動例】
・身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。(B(2)ア)

2学期	11月	2	かん字の ひろば① 日づけと よう日 教科書:P28 △日付と曜日を表す漢字を正しく読む。 ☆学習用語:一週間／一ヶ月／一年間	漢字	1	1. 学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 * 日付と曜日を表す言葉や漢字を使った書き方を知るという学習課題を確かめ、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。 2. 今日は何日かを確かめ、日付の読み方を考える。 * 模造紙に書いたカレンダーを黒板に貼る。曜日と日付は授業月に合わせる。授業の進行に従って日付や曜日の読み方を書き入れる。 * 日付を使って短い文を作り、発表し合ってもよい。 3. カレンダーから曜日の漢字を集め、読み方について話し合う。 * 日曜日から土曜日までのひとまとまりの七日間を「一週間」と呼ぶことを確認する。 4. 「大の月」「小の月」を理解する。 * 十二か月分の日付が入った一枚のものの大判カレンダーがあるとわかりやすい。	【知識・技能】 ◎当該学年に配当されている漢字を読んでいる。((1)エ) 【態度】 ・積極的に漢字を読み、学習課題にそって音読しようとしている。
					2	5. 日付と曜日の読み方に慣れる。 6. 日付や曜日を表す漢字を書いて確認する。 7. 「日づけの うた」と「よう日の うた」を楽しく唱える。 * 楽しく唱えることを通して、語句の意味やまとまりに気づくことができるようにする。 8. 学習したことを振り返る。	
2学期	11月	10 (書く4)	ニ だれが なにを したかを たしかめよう うみへの ながい たび 教科書:P32 □白くまの様子を考えながら声に出して読み、写真と文から、誰が何をしたかを確かめる。 ★ここが大事:だれが なにを したかを かんがえる ☆学習用語:できごと、順序、時	読む	1	〈見通しをもとう〉 1. 単元扉を読み、単元の見通しをもたせる。 * 単元扉の題名、いざないの言葉、写真を見て、お話を想像させる。 2. 本文を読み、初発の感想をもつ。	【知識・技能】 ○語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。((1)ク) ◎共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) 【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(C(1)イ) ○「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C(1)エ) 【言語活動例】 ・読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。(C(2)イ)
					2・3	〈たしかめよう〉 3. 「ながいたび」は、どのような旅なのか考えながら読む。 (1)誰が出てくるかを確認する。 (2)写真を見て、誰が何をしているのかを考える。 * 登場人物の言葉を想像させてもよい。	
					4	〈くわしくよう〉 4. P35の写真とP45の写真を比べて違いを見つける。 * お話は、始めと終わりで何かが変わることを確認する。	【態度】 ・すすんで、誰が何をしたのかを考えてお話の大体をつかみながら読み、学習の見通しをもって好きな写真を選び、それを選んだ理由とあわせて話そうとしている。
					5・6	〈まとめよう〉 5. 七枚の写真から、好きな一枚を選んで、その理由とともに発表する。 * 児童が選びやすいように、それぞれの写真に題名や番号をつけておくもよい。	
					7～9	〈つたえあおう〉 6. 〈まとめよう〉で選んだ写真の中の登場人物になったつもりで言葉を考える。 * 「とき」を表す言葉に気をつけて読みながら、できごとの「じゅんじょ」を確認させる。 * 七枚の写真は七つの場面と対応しているので、場面に合った言葉になるよう、本文の言葉をもとに考えさせる。 * 動作化したり、写真にふきだして言葉を書いたりして、母さんぐまや子ぐまの思いを想像させる。	
					10	〈ふりかえろう〉 7. 単元で学んだことを振り返る。 * 「 」と()の違いについて考えさせる。 * お話を読むときには、誰が何をしているか、できごとがどのような順序で起きているかを考えることが大切だと確認する。	

2学期	12月	6 (書く6)	三しゃしんをよく見て、そうぞうしよう きこえてきたよ、こんなことば 教科書:P50 ■写真をもとに、できごとを想像したりふきだしの 中の言葉を考えたりして、お話を書く。 ★ここが だいじ:おはなしを かんがえる ☆学習用語:想像する／お話を考える／「いつ」 ／「どこで」／「だれが」／「なにを」／吹き出し	書く	1 〈見通しをもとう〉 1. 写真をもとにお話を考えて書くという学習の見通しをもつ。 〈きめよう・あつめよう〉 2. じっくりと写真を見て、気づいたことを出し合ったり、想像したことを話したりする。 2・3 〈くみ立てよう〉 3. 写真を見て、心に浮かんだ言葉や想像した言葉をふきだしに書く。 * 想像することが難しい場合には、バベットやペープサートなどを利用して、 会話から発想させて書かせてもよい。 4. ふきだしの言葉をもとに前後を想像し、お話を考える。 4・5 〈かこう〉 5. 考えたお話を書く。 * ふきだしの言葉は、必ず文章に取り入れ、かぎ(「 」)の表記や「……」と言 いました。」との対応を理解させる。 * 「始め」の部分には、「いつ」「どこで」「誰が」「何を」を簡単に書かせると書 き出しやすい。 * 「始め」「終わり」の部分は簡略化させ、「中」の部分に重点をおいて楽しく 書けるようにさせる。 * 「終わり」の部分を書くのが難しい児童には、例文を幾つか用意しておき、 適宜選ばせるなどする。 〈よみかえそう〉 6. 声に出して読み返す。 * 一人で声に出して読む、友達に聞いてもらうなど何回か読み返させる。 6 〈つたえあおう〉 7. 友達と読み合う。 * よく書けているところやおもしろいところなどを伝え合うようにさせる。 〈ふりかえろう〉 8. 写真からお話を考えるときにどんな工夫をしたか、めあてにそって、振り 返る。	【知識・技能】 ◎長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「 」)の使い方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使っている。((1)ウ) 【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) 【言語活動例】 ・簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。(B(2)ウ) 【態度】 ・すすんで想像したことから書くことを見つけ、今までの学習を生かして簡単なお話を書き、友達に伝えようとしている。
2学期	12月	3	ことばの ぶんか① 天に のぼった おけやさん 教科書:P54 △古くから伝わっている話を、興味をもって聞き、おもしろかったところを友達に伝える。	文化	1 1. 昔話について、簡単に知る。 * 昔から語り継がれてきたお話を昔話ということ、人々に親しまれてきたからこそ伝えられているのだということを知らせる。 2. 絵を見て、順序を考えながら、教師の音読を聞く。 * P55の挿絵を手がかりにしながら、どんな話なのか、話の展開を予想させる。 * 教師は、付録(P142～145)の文章を児童に向かって読む。児童には、挿絵を指で押さえたりするなどさせながら、難語句などは、絵と照応させるなど、児童にわかりやすいように話をする。ただし、詳細に説明する必要はない。お話の概要がつかめる程度でよい。 3. 絵を手がかりにお話の順序を確認める。 * 挿絵を手がかりにしながら、話の順序を確認させる。 2・3 4. おもしろかったところを発表する。 5. 学習を振り返る。	【知識・技能】 ◎昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しんでいる。((3)ア) 【思考・判断・表現】 ○「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C(1)エ) 【言語活動例】 ・読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。(C(2)イ) 【態度】 ・すすんで昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞き、学習の見通しをもっておもしろかったところを発表しようとしている。
2学期	12月	2	ことばの ひろば① かたかな 教科書:P56 △片仮名の書き方や使い方に慣れ、正しく使う。 ☆学習用語:片仮名／言葉／漢字／小さく／書く 片仮名／伸ばす音	言語	1 1. 学習内容を理解し、日常化への見通しをもつ。 * 教材冒頭の会話文を読み、日常的に使う片仮名を意識する。 2. P56を参考に、片仮名で書く言葉を探し、自分でも仲間ごとに言葉を集め、ノート(ワークシート)に書く。 * 教材の例文のように、身近な言葉の中に片仮名で書くものがあることに気づかせる。また、ほかにもどのようなものがあるか自分たちであげ、片仮名をより身近に感じて学習することができるようにする。 2 3. まちがえやすい字形の片仮名を、書き順や形に気をつけて書く練習をする。 * 似た字形の片仮名を正しく書き分けることが重要である。まちがえずに書くために、書き順や字形やはらいの方向などを、教師が確認しながら児童に覚えさせるように指導することを心がけたい。 4. 片仮名の濁音と半濁音、促音、拗音や長音の言葉を読んだり書いたりする。 * 片仮名の濁音と半濁音、長音や拗音の読み方や書き方を教師が示しながら指導をする。 * 文字を書かせる際に、拗音(「チャ・チュ・チョ」など)は特に、発音させながら書かせることが効果的である。読み方と書き方が一致するように指導することを心がけたい。 * 書かせる際には、まず目を上手に利用し、片仮名の形や拗音・長音を書く位置などにも気をつけさせる。 5. 学習したことを振り返る。	【知識・技能】 ◎片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使っている。((1)ウ) ○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。((1)オ) 【態度】 ・積極的に片仮名を読み、見通しをもって読んだり書いたりしようとしている。

2学期	12月	2	かん字の ひろば② かん字の よみかた 教科書:P58 △漢字には、使い方によって読み方が変わるものがあることを理解する。 ☆学習用語:漢字	漢字	1	1. 学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 2. 「山のぼりをする」「ふじ山を見る」を声に出して読み、「山」の読み方の違いを考える。 * 「山」「山のぼり」「ふじ山」の語に意識が向くように、絵や写真などを用意するとよい。 3. 「日」に、いろいろな読み方があることを理解する。 4. 「山」「日」を使った言葉を集め、それぞれにどんな読み方があるかを確認、話し合う。 * 集めた言葉を使って短い文を作り、発表し合わせる。	【知識・技能】 ◎当該学年に配当されている漢字を読んでいる。(1)エ) 【態度】 ・すすんで漢字を読み、今までの学習を生かして、使い方によって複数の読み方がある漢字を知ろうとしている。
					2	5. P59の設問を考え、それぞれの漢字の読み方を確認めるとともに、他にも読み方がいくつかある漢字を探し出す。 * 声に出して読ませたり、ノートに書かせたりして練習させる。 * 巻末提示の「いっしょに おぼえたい よみかた」も、徐々に身につけられるように指導していく。 6. 学習したことを振り返る。	
2学期	12月	4 (書く4)	気持ちを かいて、よみかえそう ころが あたたくなる 手がみ 教科書:P60 ■相手を決めて、気持ちが伝わるように手紙を書く。 ☆学習用語:手紙／相手／気持ち／読み返す	書く	1	〈見通しをもとう〉 1. 手紙を書くという学習活動について知り、見通しをもつ。 * 手紙にふれる機会がほとんどない児童もいることも想定し、実物や例示できる手紙を見せたり、もらってうれしかった経験を話したりしてイメージできるように工夫する。手紙の出てくる絵本なども活用し、手紙の特性や、それをもたらったときのうれしさなどに気づかせてもよい。	【知識・技能】 ◎言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。(1)ア) 【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりしている。(B(1)エ)
					2	2. 手紙を書く相手を決め、相手に伝えたい気持ちをはっきりさせる。 * 相手に伝えたい「気持ち」とそれに関係する「できごと」を組み合わせる書くように助言するとよい。 * 返事がもらえるように、あらかじめ相手に協力を呼びかけたり、保護者をお願いしたりすることが必要である。	【言語活動例】 ・日記や手紙を書くなど、思ったことや伝えたいことを書く活動。(B(2)イ) 【態度】 ・すすんで手紙のよさについて考え、学習課題にそって、相手を想定して思ったことや伝えたいことを書こうとしている。
					3	3. 手紙を書いて、読み返し、清書する。 * 書き終わったら、まず自分で声に出して読んでみる。推敲するポイントのチェック表などを用意し、自分で気づかせる。	
					4	4. 手紙を渡す。 * 学級内で手紙を渡した場合は、返事を書かせる。 〈ふりかえろう〉 5. 手紙のよさを考え、学習を振り返る。 * 返事をもらえる場合は、そのあとに振り返ってもよい。	
2学期	12月	6	四 ようすを おもいうかべながら よもう スイミー 教科書:P64 □どのようなお話が考えながら読み、おもしろかったところを紹介する。 ★ここが大事:ようすを おもいうかべる ☆学習用語:様子／訳／はじめ／おわり／わけ／なぜ	読む	1	〈見通しをもとう〉 1. 単元扉を読み、学習の見通しをもつ。 〈たしかめよう〉 2. 登場人物やお話の内容を確認する。 (1)お話に誰が出てきたのかを確認する。 (2)始めと終わりで何が変わっているのかを確認する。 * スイミーが海で出会った生き物たちは、挿絵と対応させて板書するとよい。 * 順序や場面については、『うみへの ながい たび』の学習を振り返り、関連づけて考えさせる。	【知識・技能】 ◎読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。(3)エ) 【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C(1)エ) 【言語活動例】 ・読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。(C(2)イ) 【態度】 ・すすんでお話を読むとともに、学習課題にそって、場面の様子に着目して登場人物の行動を具体的に想像したり、お話の表現のよさやおもしろさに気づき、発表したりしようとしている。
					2・3	〈くわしくよう〉 3. 場面の様子から登場人物の行動の理由を考える。 (1)スイミーがすばらしいものやおもしろいものを見た時の様子を思い浮かべながら、スイミーの言葉を考える。 (2)(1)の言葉の理由を考え、発表する。 * 本文の言葉や身近なもの、自分の経験などをもとに想像させる。	
					4	〈まとめよう〉 4. スイミーはどうして変わったのか、場面の様子に着目しながら考え、発表する。 * どうしたら小さな魚のきょうだいを助けることができるか、どうしたらとても悲しい思いをしないですむかを「うんと考えた」ことに着目させる。	
					5・6	〈つたえあおう〉 5. お話を読んで心に残ったところを伝え合う。 〈ふりかえろう〉 6. この教材で学習したことを振り返る。	

2学期	12月	5	どくしょの ひろば 「おはなしどうぶつえん」を つくろう 教科書:P82 ◇動物の出てくる本を読んで、友達に紹介する。 ☆学習用語:題名／作者／カード	読書	1・2	1.「おはなしどうぶつえん」で本を紹介し合うことを知り、動物の出てくる本を見つけて読む。 (1)どんな「どうぶつえん」を作りたいかを話し合う。 (2)動物の出てくる本を探す。 ＊ 本を探すときには、書名、表紙の絵、中の絵、中身を少し読むなどを手がかりにすればよいことに気付かせる。 (3)本を読んで、動物名と書名を書かせる。	【知識・技能】 ◎読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。(C3)エ 【思考・判断・表現】 ◎文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。(C1)カ 【言語活動例】 ・読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。(C2)イ 【態度】 ・すすんで本を探し、登場人物や心に残ったところを紹介しようとしている。
					3	2. 紹介する本を決め、紹介のためのカードやメモを書く。 (1)紹介カードを書き、動物ごとに貼る。 ＊ 動物園の台紙、もしくは、動物ごとに画用紙を用意する。動物の絵も児童に描かせると、より楽しい活動になる。 (2)紹介メモを書く。 ＊ ガイドさんとして、動物を紹介できるように、どんな動物か、お話のどこからそう思ったかを考えさせる。また、好きなところや心に残ったところなど、紹介したいことを書かせる。 (3)紹介の練習をする。 ＊ 本の絵をお客さんに見せながら、紹介できるようにさせる。	
					4・5	3.「おはなしどうぶつえん」で、本を紹介し合い、紹介された本を読む。 (1)「おはなしどうぶつえん」を開き、本を紹介し合う。 ＊ ガイドさんとお客さんに分かれ、交代しながら行う。 ＊ 紹介を聞いて読みたくなった本は、書名を記録させておく。 (2)紹介された本を読み、「おきやくさまカード」を貼る。 ＊ 紹介してくれた友達や同じ本を読んだ友達と感想を交流する時間を設けてもよい。 (3)「おはなしどうぶつえん」を作る学習を振り返る。 ＊ 紹介された本を読んだり、新たな本を探したりするなどの読書活動が継続していくように促す。	
3学期	1月	1	しを よもう ゆき 教科書:P86 △言葉が生み出すイメージの広がりや、音読をとおして、詩を楽しむ。 ☆学習用語:詩	読む	1	1. 雪について、知っていることを発表する。 ＊ 雪を見たり、雪遊びをしったりしたことなどを自由に発表させる。 2. 読み方を工夫して、音読を繰り返したあとに、作品に対する感想を発表する。 ＊ 繰り返し音読して、言葉のリズムをつかませる。 3. 連ごとにイメージを発表し合う。 ＊ 初雪から春への季節の変化を確かめる。気温の変化については、説明してもよい。 ＊ 「どかゆき」「ねゆき」などの雪がイメージできない児童には、写真等を提示してイメージできるようにする。 4. 「ゆき」の様子を思い浮かべながら自由に音読し、発表し合う。 ＊ 情景が感じられるように、「きゅっきゅ」「のしのし」「ずんずん」のオノマトペの部分の音読を工夫させたい。 ＊ 「きゅっきゅ」などの言葉を音読する場合は、動作化を取り入れるとよい。	【知識・技能】 ◎語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(C1)ク 【思考・判断・表現】 ○「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C1)エ 【言語活動例】 ・読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。(C2)イ 【態度】 ・すすんで言葉の響きなどに気をつけて、学習の見通しをもって音読しようとしている。

3学期	1月	14 (書く5)	五 した ことと むすびつけて よもう みぶりで つたえる 教科書:P90 □文章と絵の対応に気をつけながら読み、いろいろな身振りが表すことを説明する文章を書く。 ★ここがだいじ:じぶんの した ことと むすびつけて よむ ☆学習用語:みぶり／むすびつける／説明	読む	1	〈見通しをもとう〉 1. 単元名やいざないの文を読み、学習の見通しをもつ。 (1)「みぶり」の意味を確認し、これまでにしたことのある身振りを話し合う。 (2)「じぶんのしたこととむすびつけてよむ」とは、どのような読み方かを考え、発表する。 (3)本文を読む。 (4)範読を聞きながら、本文に登場する身振りを実際に行ってみる。	【知識・技能】 ◎言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。((1)ア) 【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けている。(B(1)オ) ◎「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(C(1)オ) ◎「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。(C(1)カ)
					2	〈たしかめよう〉 2. 『みぶりで つたえる』には、どんな身振りが出てきたのかを確認する。 (1)二人組で、音読をする側と身振りをする側に分かれて音読する。 (2)二人組で、本文に出てきた身振りが幾つあるかを確認する。	【言語活動例】 ・簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。(B(2)ウ) ・事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かったことや考えたことを述べる活動。(C(2)ア)
					3	3. 『みぶりで つたえる』で説明されている身振りが幾つあるのかを確認し、知っていること、もっと知りたいことを発表する。 (1)前時に二人組で話したことを発表し、挿絵をもとに、身振りが幾つあるか全体で確認する。 (2)二人組で役割に分かれて音読し、身振りの数を再度確認する。 (3)身振りについて知っていることや、もっと知りたいことを発表する。	【態度】 ・積極的に文章の内容と自分の体験とを結びつけ、学習課題にそって身振りのよさについて考えたことを文章にまとめようとしている。
					4～6	〈くわしくよもう〉 4. 本文に出てきた身振りについて、一つ一つ正確におさえる。 (1)文と挿絵を結びつけて、どの文がどの身振りについて説明しているのかを確認する。 (2)それぞれの絵が、どんなときにどんなことを伝えようとしているのかを表にまとめる。 (3)全体で確認する。	
					7～11	〈まとめよう〉 5. 日頃の生活の中での経験と本文を結びつける。 (1)挿絵を参考にし、ふだんの生活で、どのような身振りをどのようなときに使っているのかを想起し、発表する。 (2)出てきた身振りについて、「みぶり・どんなとき・つたえたいこと」を観点に、表にまとめる。 6. 表をもとに、身振りを使ってよかったことについて書いてまとめる。 ＊書くことが難しい児童には、わかりやすく伝えられたり、遠くの人にも伝えることができたりしたことを書かせるなど、具体的に例示するとよい。	
					12～14	〈つたえあおう〉 7. 前時に書いた文章を読み合い、友達のよいところや、自分と違うところを見つけて伝え合う。 ＊二人組を作って読み合いをし、そのあとさまざまな相手と交流することで、友達の考えのおもしろさに気づくようにする。 〈ふりかえろう〉 8. 学習全体を振り返る。 (1)教科書「ふりかえろう」の二つの観点にそって振り返る。 ＊「みぶりでつたえることの『よさ』を書くときに、どのようなことに気をつけましたか。」という投げかけがわかりにくい場合は、「字の丁寧さ」や、「詳しく書こうとしたか」など、具体的に振り返る視点を伝えるとよい。 (2)振り返りを友達と交流する。 (3)今後の説明文の学習に生かしたいことを発表する。	
3学期	1月	1	ことばの ひろば② 文をつくろう 教科書:P102 △主語と述語の関係に気をつけながら、いろいろな文を作る。 ☆学習用語:だれ(なに)が／どうした(どうしている)	言語	1	1. P102の絵に描かれているものをあげる。 ＊この時点では、単語のみで構わない。 2. P102の会話文をととして、文作りにおいて主語と述語の対応が重要であることを知る。 ＊会話文を教師が読んで、文作りにおいて主語と述語の対応が重要であることを気づかせる。 3. 絵に描かれた事柄を、「誰(何)が――どうしています」の文型にあてはめながら文を作り、発表する。 ＊初めに「誰が――どうしています」の文型に合わせて、人物が主語となる文を作らせ、次に「何が――どうしています」の文型に合わせて、動物や物が主語となる文を作らせる。 ＊猫やちょうなど動物や昆虫は人間ではないので、「何が――どうしています」の文型にあたることとする。 ＊板書した文の中から修飾語を加えたほうがよい文を幾つか取り出し、修飾語を加えて板書してもよい。 4. 学習したことを振り返る。	【知識・技能】 ○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付く。語彙を豊かにしている。((1)オ) ◎文の中における主語と述語との関係に気付いている。((1)カ) 【態度】 ・すすんで文の中における主語と述語との関係に気づこうとし、学習課題にそって簡単な文をすすんで作ろうとしている。
3学期	1月	2	かん字の ひろば③ かわる よみかた 教科書:P104 △漢字には、使い方によって読み方が変わるものがあることを理解する。 ☆学習用語:読み方	漢字	1	1. 学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 2. P104上段の文を声に出して読み、「一台」と「一けん」の読み方を比べ、違いを考える。 ＊板書で、絵カードを右から順に一枚ずつ増やしていき、その数量を問う。発音を明示するために仮名でも書く。 3. P105上段の設問を考え、それぞれの言葉の読み方を確かめ、話し合う。 ＊「一枚・六枚・十枚」「一個・六個・十個」を例に、読み方が変わることを経験的に理解できるようにする。 ＊言葉のつながりによって、数詞や助数詞の読み方が変わる場合があることに気づかせる。	【知識・技能】 ◎当該学年に配当されている漢字を読んでいる。((1)エ) 【態度】 ・すすんで漢字を読み、今までの学習を生かして、使い方によって読み方が変わる漢字を知ろうとしている。
					2	4. P105下段の設問を考え、それぞれの言葉の読み方を確かめ、それらの言葉を使って短い文を作り、発表し合う。 ＊数え方だけでなく、ふだんの言葉の中にも、読み方が変わるものがあることに気づかせる。 ＊文作りをしたとき、きちんと連濁や促音化をしているかを確認するために、読み仮名をふらせる。 5. 学習したことを振り返る。	

3学期	2月	8 (話す聞く8)	六 ききたい ことを おとさないように きこう はじめて した 学校の こと 教科書:P106 ◇学校で働いている人に、知りたいことを尋ねて、聞いたことをメモに書き、メモをもとにクラスのみんなに伝える。 ★ここが だいじ:はなしを ききに いく とき ☆学習用語:伝える／質問／メモ／お話／理由／様子／発表／気持ち	話聞	1 〈見通しを もとう〉 1. 単元名とリード文を読み、学習の見通しをもつ。 (1)学校のことをみんなに伝えるという学習の見通しをもって、「がくしゅうのすすめかた」をもとに学習計画を立てる。 * 教科書を参考に、学校のことにについていろいろなかたに話を聞いて、クラスのみんなに伝えるという学習の流れをつかませ、意欲を高める。 2 〈きめよう・あつめよう〉 2. 話を聞く相手と、聞きたいことを決める。 (1)先生や学校で働いている人のことを思い出し、話を一緒に聞きに行く友達と、話を聞きたい相手や聞きたいことについて決める。 * 学校の絵地図などを用意して、1学期(前期)に行った学校探検を思い出させ、学校で働いている人たちがどこにいるか、行ったり見たりした経験を思い起こさせる。 * 職員室・保健室・特別教室・校長室・事務室・用務主事室・給食室など、そこにいる大人が、どんなかたで、どんなことをしているか想起させる。 3 〈くみ立てよう〉 3. 決めたことをもとに、メモを作る。 (1)P107の2とP109の4を読み、話を一緒に聞きに行く友達と決めたことをもとに、メモを作る。 * 行き先を決めて分担し、一緒に行く友達どうして2～3人のグループを作り、どんなことを聞いてくるか話し合わせ、質問ごとに分担させる。 4 4. 一緒に聞きに行く友達と練習する。 (1)P107の「ここが だいじ」とP108の3を参考に、一緒に聞きに行く友達と聞くことを分担したり、相手に応じた言葉づかいを考えて練習したりする。 * グループで入室の仕方やはじめの挨拶などを確かめ、更に個別の質問の順番等を確認し、言葉づかいなどに気をつけて繰り返し練習して、アドバイスさせ合う。 5 〈はなそう・きこう〉 5. 話を聞きに行く。 (1)P109の4を読み、次時に聞いたことをメモに書くことを知り、実際に聞きに行く。 * ここでは、聞きながらメモを取るのではなく、次時に思い出して書くことに留意して、話してもらったことをきちんと聞き取ってくるようにさせる。 6 〈つたえあおう〉 6. 聞いたことを思い出してメモに書く。 (1)聞いたことを思い出しながら協力してメモに書く。 * 聞いてきたことを思い出して、大事なことをメモに書いて確かめ合わせる。 (2)メモをもとにクラスのみんなに話すことを確かめ、話す順番を決めて練習する。 * みんなに話すことをはっきりさせて発表の練習をし合うように促す。 7 7. メモを見ながら、聞いてきたことをみんなに伝える。 (1)全員の前で、声の大きさや話す速さに気をつけて発表する。 * 質問や感想を述べ合うようにさせる。 8 〈ふりかえろう〉 8. 学習を振り返る。 (1)学習全体を振り返り、できるようになったことや感想を確かめる。 * 全体で話したり聞いたりして、学習の自己評価をさせる。 * 話を聞きに行ったときに、学校で働いている人が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように、どんなことに気をつけて話を聞いたかを振り返らせる。 * 伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや話す速などを工夫することができたかを振り返らせる。
-----	----	--------------	--	----	---

【知識・技能】
◎丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れている。(1)キ)

【思考・判断・表現】
○「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さを工夫している。(A(1)ウ)
◎「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。(A(1)エ)

【言語活動例】
・紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。(A(2)ア)

【態度】
・すすんで話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、学習課題にそって、初めて知った学校のことにについてみんなに伝えようとしている。

3学期	2月	3	ことばの ひろば③ ことばで つたえよう 教科書:P110 △目の前にあるものや経験したことなどを言葉を使って言い表し、言葉の便利さやおもしろさなどを理解する。 ☆学習用語:どんな／表す／様子／伝える	言語	<table><tr><td>1</td><td> 1. 「言葉」で伝え合っていくという学習内容を理解し、好きな給食について話し合う。 * 教師の好きな給食について、色や大きさ、味をヒントにしたクイズを出す。 2. P110の絵を参考に、自分の好きな給食を絵に描いて、食べ物の名前を言葉で表す。 3. 自分の好きな給食の様子を思い出し、色や形など見てわかる情報を言葉で表す。 * 味や食感など見えない情報は次時で扱う。 4. 学習を振り返り、次時以降の活動の見通しをもつ。 </td><td rowspan="3"> 【知識・技能】 ◎言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。((1)ア) ○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにしている。((1)オ) 【態度】 ・すすんで、言葉には事物の内容を表すはたらきや経験したことを伝えるはたらきがあることに気づき、学習課題にそって、食べ物の様子について言葉で尋ねたり応答したりしようとしている。 </td></tr><tr><td>2</td><td> 5. 前時で書いた言葉に、味や食感などの見えないものの説明を加え、見えるものを表す言葉と見えないものを表す言葉との違いを考える。 * 前時で扱った色や形に比べて、味や食感は言語化が難しい児童がいると考えられる。そのため、学級全体で食べ物の味や食感についての言葉を交流し確認するとよい。 * 「頬が落ちるくらい甘い」などと、詳しく伝えようとしている児童の考えを称揚し、共有する。 6. 自分が描いた絵を見せながら食べたものの様子を発表し、伝え合う。 * P113の文章を読んで、色や形など絵に描いてあることからわかりやすいものと、味や食感など絵を見ただけではわかりにくいものがあることに気づけるようにする。 * 次時につなげるため、クイズ形式にして伝え合ってもよい。 * 二種類の言葉をうまく使うことで、聞いている人によりよく伝わることを確認する。 </td></tr><tr><td>3</td><td> 7. 好きな食べ物などを思い浮かべ、問題を作る。 * 言葉を工夫するという視点をもって活動できるようにする。 * 自分が好きな食べ物を選ぶことで、想起しやすく、楽しく表現できるようにする。 * 家庭学習で取り組んでおいたものを確認するところから始めてもよい。 8. 食べ物クイズを友達と出し合う。 * 問題を作りながら、絵には描けなくても感覚を思い出しながら表現できる言葉のおもしろさに気づき、いろいろなものを表現したいという気持ちを引き出せるようにする。 9. 学習したことを振り返る。 * 絵に描けないものでも言葉では伝えることのできるおもしろさに気づけるようにする。 </td></tr></table>	1	1. 「言葉」で伝え合っていくという学習内容を理解し、好きな給食について話し合う。 * 教師の好きな給食について、色や大きさ、味をヒントにしたクイズを出す。 2. P110の絵を参考に、自分の好きな給食を絵に描いて、食べ物の名前を言葉で表す。 3. 自分の好きな給食の様子を思い出し、色や形など見てわかる情報を言葉で表す。 * 味や食感など見えない情報は次時で扱う。 4. 学習を振り返り、次時以降の活動の見通しをもつ。	【知識・技能】 ◎言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。((1)ア) ○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにしている。((1)オ) 【態度】 ・すすんで、言葉には事物の内容を表すはたらきや経験したことを伝えるはたらきがあることに気づき、学習課題にそって、食べ物の様子について言葉で尋ねたり応答したりしようとしている。	2	5. 前時で書いた言葉に、味や食感などの見えないものの説明を加え、見えるものを表す言葉と見えないものを表す言葉との違いを考える。 * 前時で扱った色や形に比べて、味や食感は言語化が難しい児童がいると考えられる。そのため、学級全体で食べ物の味や食感についての言葉を交流し確認するとよい。 * 「頬が落ちるくらい甘い」などと、詳しく伝えようとしている児童の考えを称揚し、共有する。 6. 自分が描いた絵を見せながら食べたものの様子を発表し、伝え合う。 * P113の文章を読んで、色や形など絵に描いてあることからわかりやすいものと、味や食感など絵を見ただけではわかりにくいものがあることに気づけるようにする。 * 次時につなげるため、クイズ形式にして伝え合ってもよい。 * 二種類の言葉をうまく使うことで、聞いている人によりよく伝わることを確認する。	3	7. 好きな食べ物などを思い浮かべ、問題を作る。 * 言葉を工夫するという視点をもって活動できるようにする。 * 自分が好きな食べ物を選ぶことで、想起しやすく、楽しく表現できるようにする。 * 家庭学習で取り組んでおいたものを確認するところから始めてもよい。 8. 食べ物クイズを友達と出し合う。 * 問題を作りながら、絵には描けなくても感覚を思い出しながら表現できる言葉のおもしろさに気づき、いろいろなものを表現したいという気持ちを引き出せるようにする。 9. 学習したことを振り返る。 * 絵に描けないものでも言葉では伝えることのできるおもしろさに気づけるようにする。								
1	1. 「言葉」で伝え合っていくという学習内容を理解し、好きな給食について話し合う。 * 教師の好きな給食について、色や大きさ、味をヒントにしたクイズを出す。 2. P110の絵を参考に、自分の好きな給食を絵に描いて、食べ物の名前を言葉で表す。 3. 自分の好きな給食の様子を思い出し、色や形など見てわかる情報を言葉で表す。 * 味や食感など見えない情報は次時で扱う。 4. 学習を振り返り、次時以降の活動の見通しをもつ。	【知識・技能】 ◎言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。((1)ア) ○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにしている。((1)オ) 【態度】 ・すすんで、言葉には事物の内容を表すはたらきや経験したことを伝えるはたらきがあることに気づき、学習課題にそって、食べ物の様子について言葉で尋ねたり応答したりしようとしている。																		
2	5. 前時で書いた言葉に、味や食感などの見えないものの説明を加え、見えるものを表す言葉と見えないものを表す言葉との違いを考える。 * 前時で扱った色や形に比べて、味や食感は言語化が難しい児童がいると考えられる。そのため、学級全体で食べ物の味や食感についての言葉を交流し確認するとよい。 * 「頬が落ちるくらい甘い」などと、詳しく伝えようとしている児童の考えを称揚し、共有する。 6. 自分が描いた絵を見せながら食べたものの様子を発表し、伝え合う。 * P113の文章を読んで、色や形など絵に描いてあることからわかりやすいものと、味や食感など絵を見ただけではわかりにくいものがあることに気づけるようにする。 * 次時につなげるため、クイズ形式にして伝え合ってもよい。 * 二種類の言葉をうまく使うことで、聞いている人によりよく伝わることを確認する。																			
3	7. 好きな食べ物などを思い浮かべ、問題を作る。 * 言葉を工夫するという視点をもって活動できるようにする。 * 自分が好きな食べ物を選ぶことで、想起しやすく、楽しく表現できるようにする。 * 家庭学習で取り組んでおいたものを確認するところから始めてもよい。 8. 食べ物クイズを友達と出し合う。 * 問題を作りながら、絵には描けなくても感覚を思い出しながら表現できる言葉のおもしろさに気づき、いろいろなものを表現したいという気持ちを引き出せるようにする。 9. 学習したことを振り返る。 * 絵に描けないものでも言葉では伝えることのできるおもしろさに気づけるようにする。																			
3学期	2月	8 (書く8)	七 まとまりに わけて かき、ぶんしょうの よいところを 見つけよう おもい出の アルバム 教科書:P114 ■一年間の思い出のなかで、いちばん心に残っていることを、まとまりに分けてわかりやすく書き、書いた文章に対する感想を伝え合うことで、自分の文章の内容や表現のよいところを見つける。 ★ここがだいじ:まとまりに わけて かく ☆学習用語:思い出す／メモ／文章／読み返す／まとまりにわけ／整理する	書く	<table><tr><td>1</td><td> 〈見通しを もとう〉 1. 一年間を振り返っていちばんの思い出を書き、友達や家の人に伝えるという学習活動を見通す。 * 一年間の主な学習や行事などを想起できるように写真を提示するなど工夫し、興味・関心を喚起させる。 </td><td rowspan="7"> 【知識・技能】 ◎長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使っている。((1)ウ) 【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) ◎「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けている。(B(1)オ) 【言語活動例】 ・身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。(B(2)ア) 【態度】 ・すすんで友達の文章のよさを見つけようとし、一年間のできごとを振り返って経験したことやできるようになったことなどを書き、友達と伝え合おうとしている。 </td></tr><tr><td>2</td><td> 〈きめよう・あつめよう〉 2. 伝えたいことを一つ選ぶ。 * 写真を取り上げて話し合ったり、ペアで題材を相談したりさせ、書きたいことを見つけられるようにする。 </td></tr><tr><td>3</td><td> 〈くみ立てよう〉 3. 選んだ思い出をメモに書く。 4. メモを整理し、書く順番を決める。 </td></tr><tr><td>4・5</td><td> 〈かこう〉 5. メモをもとに文章を書く。 * P116・117の例文を読んで、よさや書くときに気をつけたいことを共有し、意識させる。 </td></tr><tr><td>6</td><td> 〈よみかえそう〉 6. 書いた文章を読み返す。 * P158・159「ぶんしょうを よみかえす とき」を参照させる。 * 書き終わったら、まず自分で声に出して読ませる。推敲するポイントのチェック表などを用意し、自分で気づかせる。 </td></tr><tr><td>7</td><td> 〈つたえあおう〉 7. 文章を読み合う。 * 文章のよさに着目させる。付箋紙に書かせて残すようにしてもよい。着目したい文章のよさを例示しておくとうい。 * ここでは多くの作品を読むことよりも、丁寧に読むことを重視して、グループで活動させるとよい。 </td></tr><tr><td>8</td><td> 〈ふりかえろう〉 8. 友達からもらった感想をもとに、自分の文章を振り返る。 </td></tr></table>	1	〈見通しを もとう〉 1. 一年間を振り返っていちばんの思い出を書き、友達や家の人に伝えるという学習活動を見通す。 * 一年間の主な学習や行事などを想起できるように写真を提示するなど工夫し、興味・関心を喚起させる。	【知識・技能】 ◎長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使っている。((1)ウ) 【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) ◎「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けている。(B(1)オ) 【言語活動例】 ・身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。(B(2)ア) 【態度】 ・すすんで友達の文章のよさを見つけようとし、一年間のできごとを振り返って経験したことやできるようになったことなどを書き、友達と伝え合おうとしている。	2	〈きめよう・あつめよう〉 2. 伝えたいことを一つ選ぶ。 * 写真を取り上げて話し合ったり、ペアで題材を相談したりさせ、書きたいことを見つけられるようにする。	3	〈くみ立てよう〉 3. 選んだ思い出をメモに書く。 4. メモを整理し、書く順番を決める。	4・5	〈かこう〉 5. メモをもとに文章を書く。 * P116・117の例文を読んで、よさや書くときに気をつけたいことを共有し、意識させる。	6	〈よみかえそう〉 6. 書いた文章を読み返す。 * P158・159「ぶんしょうを よみかえす とき」を参照させる。 * 書き終わったら、まず自分で声に出して読ませる。推敲するポイントのチェック表などを用意し、自分で気づかせる。	7	〈つたえあおう〉 7. 文章を読み合う。 * 文章のよさに着目させる。付箋紙に書かせて残すようにしてもよい。着目したい文章のよさを例示しておくとうい。 * ここでは多くの作品を読むことよりも、丁寧に読むことを重視して、グループで活動させるとよい。	8	〈ふりかえろう〉 8. 友達からもらった感想をもとに、自分の文章を振り返る。
1	〈見通しを もとう〉 1. 一年間を振り返っていちばんの思い出を書き、友達や家の人に伝えるという学習活動を見通す。 * 一年間の主な学習や行事などを想起できるように写真を提示するなど工夫し、興味・関心を喚起させる。	【知識・技能】 ◎長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使っている。((1)ウ) 【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) ◎「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けている。(B(1)オ) 【言語活動例】 ・身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。(B(2)ア) 【態度】 ・すすんで友達の文章のよさを見つけようとし、一年間のできごとを振り返って経験したことやできるようになったことなどを書き、友達と伝え合おうとしている。																		
2	〈きめよう・あつめよう〉 2. 伝えたいことを一つ選ぶ。 * 写真を取り上げて話し合ったり、ペアで題材を相談したりさせ、書きたいことを見つけられるようにする。																			
3	〈くみ立てよう〉 3. 選んだ思い出をメモに書く。 4. メモを整理し、書く順番を決める。																			
4・5	〈かこう〉 5. メモをもとに文章を書く。 * P116・117の例文を読んで、よさや書くときに気をつけたいことを共有し、意識させる。																			
6	〈よみかえそう〉 6. 書いた文章を読み返す。 * P158・159「ぶんしょうを よみかえす とき」を参照させる。 * 書き終わったら、まず自分で声に出して読ませる。推敲するポイントのチェック表などを用意し、自分で気づかせる。																			
7	〈つたえあおう〉 7. 文章を読み合う。 * 文章のよさに着目させる。付箋紙に書かせて残すようにしてもよい。着目したい文章のよさを例示しておくとうい。 * ここでは多くの作品を読むことよりも、丁寧に読むことを重視して、グループで活動させるとよい。																			
8	〈ふりかえろう〉 8. 友達からもらった感想をもとに、自分の文章を振り返る。																			

3学期	2月	3	かん字の ひろば④ にて いる かん字 教科書:P118 △形の似た漢字を正しく読んだり、書いたりする。 ☆学習用語:部分	漢字	1	1. 学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 * 形が似ている片仮名を想起させる。 2. 「人」と「入」の形の似ているところ、違うところを考える。 * 文例を声に出して読み、「人」「入」を使った言葉を集めて、発表させる。 * 書き順を確認し、字形の類似点と相違点を見つけ出し、「なぜ違うのか」などと探究心を刺激しながら指導を進めるようにする。 3. 「木」と「水」、「字」と「学」、「右」と「石」の似ているところと違うところを話し合い、字形に気をつけて、正しく書く。 * 概形が似ている漢字の異同に注意を向けさせ、類似点と相違点について話し合わせる。	【知識・技能】 ◎当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。((1)エ) 【態度】 ・積極的に漢字を読み、学習課題にそって、形の似た漢字を正しく読んだり書いたりしようとしている。
					2	4. 「大ー犬」「中ー虫」「王ー玉」など、字形の一部に同じ部分が含まれている漢字があることに気づき、それぞれの意味を確かめる。 * これらの漢字を使った言葉を集め、それぞれの言葉の意味を考え、話し合う。 5. 「田」「木」「目」「口」など、字形の一部に同じ部分が含まれている漢字の仲間集めをし、短い文を作る。 * 「目」と「貝」のように、見かけ上、同じ部分があればよい。字源との関係を問わないようにする。	
					3	6. 形の似ている漢字を探し、意味や使い方を確かめ、話し合う。 7. 字形の一部に同じ部分が含まれている漢字を探し、仲間集めをし、それぞれの意味や使い方を確かめて、話し合う。 * 一年間で学んだ漢字を振り返り、筆順に従って正しく書くことができるようにする。 8. 学習したことを振り返る。	
3学期	2月	1	ことばの ぶんか② しりとりで あそぼう 教科書:P120 △「なかまのことば」だけでつないでいく「しりとり遊び」があることを知り、実際に活動してみる。	文化	1	1. しりとりをルールを確認する。 * 「しりとり遊び」を経験していたとしても、簡単なルールを確認しておく。「ん」で終わる単語を選択すると、あとへは続かないというルールで、グループで「しりとり遊び」をする。 2. 絵を見ながらしりとの言葉を確認め、それぞれなんの仲間かを発表し合う。 * 教科書の挿絵で示されたしりとの例から、仲間の言葉でつないでいく決まりになっていることに気づく。 * 挿絵のそれぞれが、なんの仲間のグループになっているかを確かめ合う。 3. なんの仲間でしりとり遊びをするかを決め、グループでしりとり遊びを楽しむ。 * 違う仲間の言葉でしりとり遊びをしたり、グループで言葉の仲間を決めたりして、しりとり遊びを楽しむ。	【知識・技能】 ◎長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付いている。((3)イ) 【態度】 ・すすんで音節と文字との関係に気づこうとし、今までの学習を生かしてしりとりを楽しもうとしている。
3学期	3月	15 (書く5)	ハ おはなしを よんで おもった ことを つたえよう お手がみ 教科書:P122 口文章を読んで、自分の体験と結びつけて、感じたことやわかったことを共有する。 ★ここが大事:よんで おもった ことを まとめる ☆学習用語:順序／様子／場面／まとめり	読む	1	〈見通しをもとう〉 1. 単元扉を読み、学習の見通しをもつ。 (1)単元扉や挿絵を見て、お話の内容を想像する。 (2)全文を読んで、登場人物やできごとを確かめる。 (3)P138「ことばを ふやそう」に取り組む。	【知識・技能】 ◎文の中における主語と述語との関係に気付いている。((1)カ) 【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(C(1)オ) ◎「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。(C(1)カ) 【言語活動例】 ・読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。(C(2)イ) 【態度】 ・物語の中の言葉のよさに気づき、すすんで自分の思いや考えを伝えようとしている。
					2～5	〈たしかめよう〉 2. お話の内容の大体をつかみ、感想を伝え合う。 (1)がまくんとかえるくんの行動や、できごとの順序を確かめ、あらすじをつかむ。 * 挿絵を使って順序を整理することで、あらすじをつかませる。 (2)心に残ったことを発表し合う。	
					6～9	〈くわしくよう〉 3. 挿絵や本文の言葉から、場面の様子や変化を詳しく読む。 (1)P124・125とP132・133の場面の挿絵から、同じところと違うところを考える。 (2)始めと終わりで手紙を待つ場面がどのように変わったのか、挿絵と本文の言葉から考える。 * 手紙を待つ場面の挿絵を、はじめとおわりの二種類用意し、その時の登場人物の心情をふきだしに書かせ、比べることで変化を読み取らせてもよい。	
					10～12	〈まとめよう〉 4. お話の好きな場面を選んで、その理由を考える。 (1)好きな場面を一つ選び、そのわけと合わせて紹介する。 * お話を繰り返し読むことで一度読んだだけではわからなかったことや、言葉がもつよさに気づかせる。 (2)好きな場面の登場人物に宛てて手紙を書く。	
					13～15	〈つたえあおう〉 5. 書いた手紙を友達と読み合う。 〈ふりかえろう〉 6. この単元で学んだことを振り返る。	

3学期	3月	2 (話す聞く1・書く1)	ひろがることば　これまで　これから 教科書:P140 ■一年間の国語学習を振り返ったり、これからの学習について考えたりして、楽しみながら学習できるようにする。	書く	1・2	1. 国語科の時間にどんな言葉をどのようにして学んできたのか思い出す。 * 可能なら、上巻の教科書も用意し、上・下巻を合わせて振り返ることができるようにする。挿絵のふきだしや教科書冒頭の「この本で学ぶこと」を参考にさせる。 * 学習のノート、作成物、プリント類(ポートフォリオ)などがあれば、利用する。 2. 思い出したことを学級で交流し、共有する。 * 楽しかったこと、できるようになったことをグループで話し合い、たくさん思い出してメモさせる。 * 単元名や教材名だけでなく、印象的な言葉や活動など思い出す内容は多様でよい。 3. 年生でどんな学習をしたいか希望を出し合う。 * 二年生になって、「できるようになりたいこと」「やってみたいこと」「読んだり書いたりしてみたいこと」など、共有した思い出したことに対応させて、いろいろな観点で自由に出し合わせる。	【思考・判断・表現】 ○「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(A(1)ア) ◎「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) 【言語活動例】 ・紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動(A(2)ア) ・尋ねたり応答したりするなどして、少人数で話し合う活動(A(2)イ) 【態度】 ・すすんで経験したことから書くことを見つけ、今までの学習を生かして思い出したことや二年生でどんな学習をしたいかを共有しようとしている。
-----	----	------------------	---	----	-----	---	--